

米に関するマンスリーレポート

(平成25年11月8日公表)

【お知らせ】

※ 今号から、「Ⅳ 生産段階の動向」に「(1)平成25年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)」を掲載します。

【本資料の目的】

「米に関するマンスリーレポート」は、米に関する価格動向や需給動向に関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

1. 「米に関するマンスリーレポート」は、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあり得ます。
2. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
3. 本資料に関する問い合わせ先

生産局農産部農産企画課
担当者：岩井、村松、川口
代表：03-3502-8111（内線4975）
ダイヤルイン：03-6738-8973
FAX：03-6738-8976

目 次

I	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成25年10月）	1
II	集出荷・卸段階の動向	
	（1）相対取引価格・数量	6
	① 相対取引価格（主な産地銘柄別、平成25年9月）	
	② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成25年産米）	
	③ 相対取引価格（年産別）	
	④ 相対取引数量（累積数量、主な産地銘柄別、平成25年9月）	
	（2）民間在庫の推移	9
	① 出荷段階	
	② 販売段階	
	（3）米の先物取引価格の推移	11
	（4）業者間取引の状況	12
	① 日本コメ市場（随時取引の結果）	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）	
	（5）(株)加工用米取引センターの取引結果	13
III	小売・消費段階の動向	
	（1）消費者物価指数の推移	14
	（2）小売物価統計の推移	15
	（3）小売価格の推移（POSデータ）	16
	（4）購入数量の推移（家計調査）	17
	（5）米の消費動向（米穀機構による調査）	18
IV	生産段階の動向	
	（1）平成25年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）	21
	（2）国産米（水稻）の作況・収穫量	25
	（3）水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量及び10a 当たり収量	25
	（4）加工用米及び新規需要米の取組状況	27
	① 加工用米の生産量	
	② 新規需要米の用途別認定状況	
	（5）水稻うるち玄米の検査結果	28
	① 検査数量及び等級比率（年産別）	
	② 水稻うるち玄米の1等比率の推移	
V	主食用米等の需給見通し（平成25年7月の米の基本指針）	
	（1）民間流通における6月末在庫の推移	29
	（2）主食用米等の需要実績の推移	29
	（3）平成24年7月から平成25年6月の主食用米等の需給実績（速報）	30
	（4）平成25年7月から平成26年6月の主食用米等の需給見通し（推計）	30
VI	備蓄米及びMA米の動向	
	（1）国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量	31
	① 25年産国内産備蓄米の政府買入入札の結果	
	② 24年産国内産備蓄米の政府買入入札の結果	
	③ 国内産備蓄米の売渡数量	
	④ 政府備蓄米の在庫の状況（平成25年6月末現在）	
	（2）MA米（一般・SBS）の動向	34
	① MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	
	② 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果（平成25年度）	
	③ SBS輸入米の見積合わせ結果（平成25年度）	

I 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成25年10月)

○ 米取引関係者に対して、需給動向や価格水準などの取引動向に関するアンケートを実施し、その結果をD Iとして算出したものである（詳細はP 5）を参照。

1. 国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断（全体）

①主食用米の需給動向

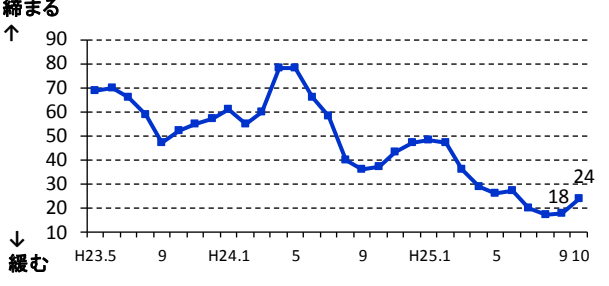
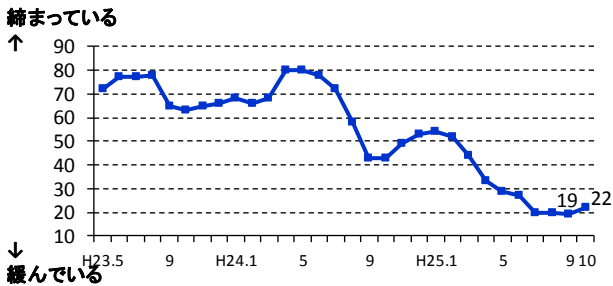
（ア）現状判断D I
前月からの増減 +3 （今月の数値 22）

（イ）見通し判断D I（向こう3ヶ月）
前月からの増減 +6 （今月の数値 24）

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来)締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来)緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

①-ア 国内の主食用米の”現在の需給動向”について、どう考えていますか。(全体)

①-イ 国内の主食用米の”向こう3ヶ月の需給動向”について、どうなると考えていますか。(全体)



②主食用米の米価水準

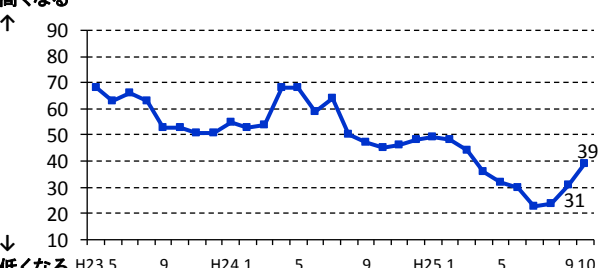
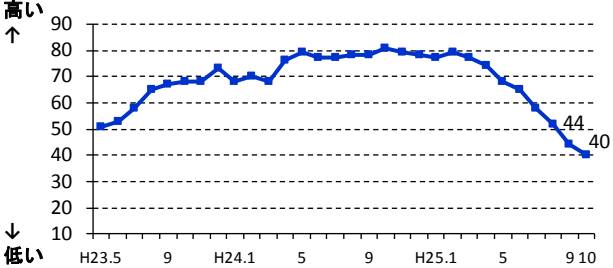
（ア）現状判断D I
前月からの増減 -4 （今月の数値 40）

（イ）見通し判断D I（向こう3ヶ月）
前月からの増減 +8 （今月の数値 39）

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、米価水準が高い/米価水準が高くなるという見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、米価水準が低い/米価水準が低くなるという見方が前月より強くなった傾向を示す。

②-ア 国内の主食用米の”現在の米価水準”について、どう考えていますか。(全体)

②-イ 国内の主食用米の”向こう3ヶ月の米価水準”について、”現時点と比較”してどうなると考えていますか。(全体)



③ 取引関係者が①及び②の判断を行うに当たり、主に考慮した要因

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	米穀の調達状況	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H24.1.1	11%	11%	3%	49%	16%	7%	3%
H24.1.2	9%	11%	2%	51%	17%	5%	5%
H25.1	6%	12%	5%	50%	19%	6%	3%
H25.2	2%	18%	5%	55%	10%	7%	4%
H25.3	1%	20%	6%	47%	16%	6%	4%
H25.4	2%	20%	3%	46%	18%	7%	4%

	作柄	国内の在庫水準	国の政策	米穀の調達状況	消費者の動向	競合商品の販売動向	その他
H25.5	1%	28%	3%	48%	9%	9%	2%
H25.6	1%	32%	3%	46%	8%	10%	1%
H25.7	2%	36%	4%	39%	11%	6%	2%
H25.8	10%	39%	1%	37%	6%	5%	3%
H25.9	8%	38%	2%	35%	8%	6%	3%
H25.10	7%	35%	3%	37%	10%	5%	3%

2. 自社の取引状況に関する判断(業態毎)

①主食用米の販売数量

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「増えた」/「(将来)増える」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「減った」/「(将来)減る」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の販売数量に関する現状判断 D I

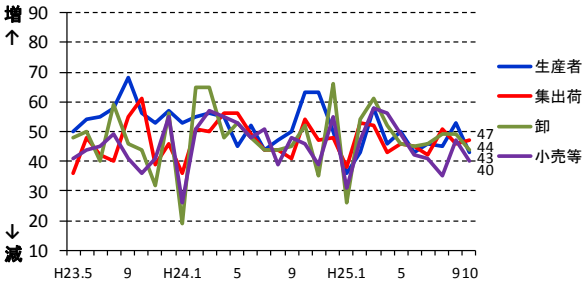
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	－10	(今月の数値	43)
集出荷：前月からの増減	＋1	(今月の数値	47)
卸：前月からの増減	－5	(今月の数値	44)
小売等：前月からの増減	－7	(今月の数値	40)

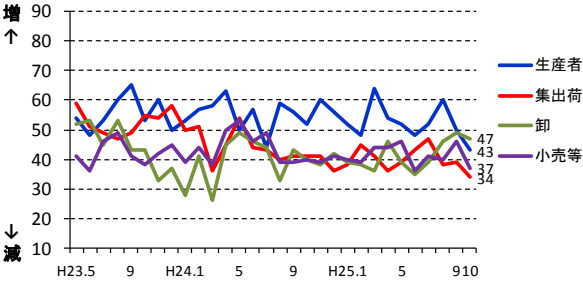
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	－7	(今月の数値	43)
集出荷：前月からの増減	－5	(今月の数値	34)
卸：前月からの増減	－2	(今月の数値	47)
小売等：前月からの増減	－9	(今月の数値	37)

①-ア-a 貴社の“今月”の主食用米の“販売数量”について、“先月と比較”するといかがですか。



①-ア-b 貴社の“今月”の主食用米の“販売数量”について、“前年同月と比較”するといかがですか。



(イ) 来月の販売数量に関する見通し D I

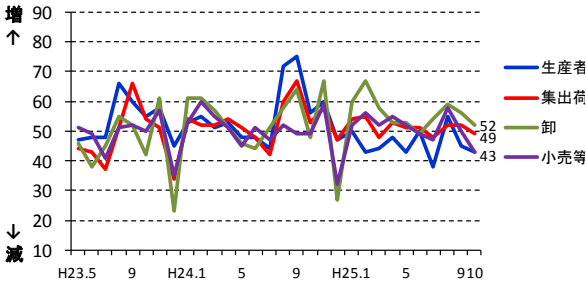
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	－2	(今月の数値	43)
集出荷：前月からの増減	－3	(今月の数値	49)
卸：前月からの増減	－4	(今月の数値	52)
小売等：前月からの増減	－7	(今月の数値	43)

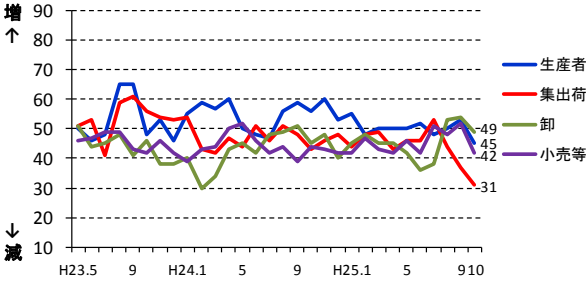
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	－8	(今月の数値	45)
集出荷：前月からの増減	－6	(今月の数値	31)
卸：前月からの増減	－5	(今月の数値	49)
小売等：前月からの増減	－10	(今月の数値	42)

①-イ-a 貴社の“来月”の主食用米の“販売数量”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



①-イ-b 貴社の“来月”の主食用米の“販売数量”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



②主食用米の価格

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「高くなった」/「(将来)高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「低くなった」/「(将来)低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の価格に関する現状判断 D I

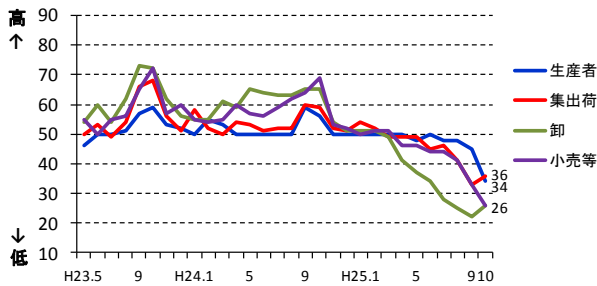
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	－ 1 1	(今月の数値	3 4)
集出荷：前月からの増減	＋ 3	(今月の数値	3 6)
卸：前月からの増減	＋ 4	(今月の数値	2 6)
小売等：前月からの増減	－ 7	(今月の数値	2 6)

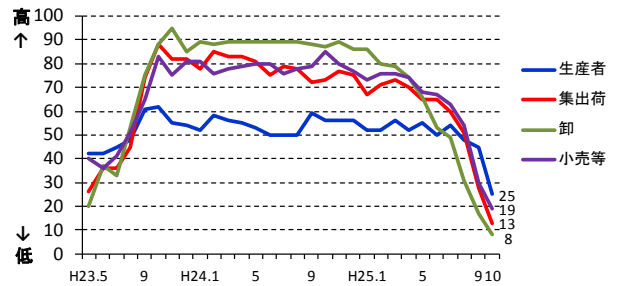
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	－ 2 0	(今月の数値	2 5)
集出荷：前月からの増減	－ 1 5	(今月の数値	1 3)
卸：前月からの増減	－ 9	(今月の数値	8)
小売等：前月からの増減	－ 1 1	(今月の数値	1 9)

②-ア-a 貴社の“今月”の主食用米の“価格”について、“先月と比較”するといかがですか。



②-ア-b 貴社の“今月”の主食用米の“価格”について、“前年同月と比較”するといかがですか。



(イ) 来月の価格に関する見通し D I

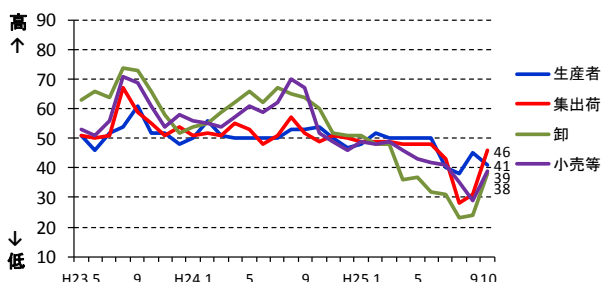
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	－ 4	(今月の数値	4 1)
集出荷：前月からの増減	＋ 1 5	(今月の数値	4 6)
卸：前月からの増減	＋ 1 4	(今月の数値	3 8)
小売等：前月からの増減	＋ 1 0	(今月の数値	3 9)

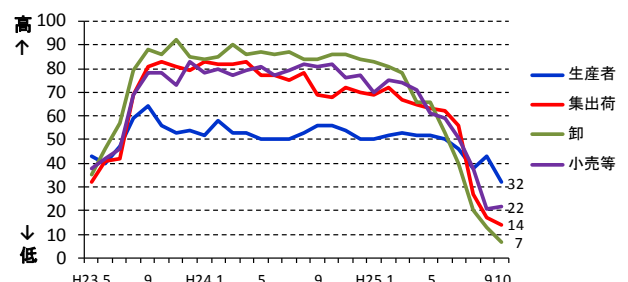
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	－ 1 1	(今月の数値	3 2)
集出荷：前月からの増減	－ 3	(今月の数値	1 4)
卸：前月からの増減	－ 6	(今月の数値	7)
小売等：前月からの増減	＋ 1	(今月の数値	2 2)

②-イ-a 貴社の“来月”の主食用米の“価格”について、“今月と比較”してどうなると考えていますか。



②-イ-b 貴社の“来月”の主食用米の“価格”について、“前年同月と比較”してどうなると考えていますか。



③主食用米の在庫量

※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「多くなった」/「(将来) 多くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「少なくなった」/「(将来) 少なくなる」という見方が前月より強くなった傾向を示す。

(ア) 今月の在庫量に関する現状判断 D I

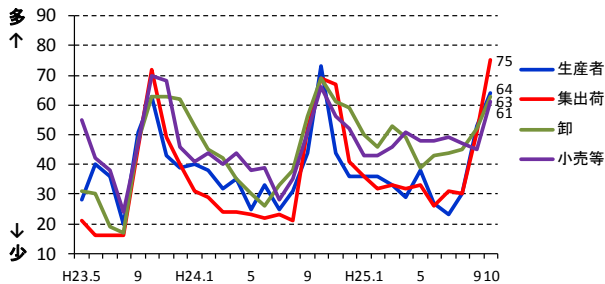
a. 先月との比較

生産者：前月からの増減	+ 1 1	(今月の数値	6 4)
集出荷：前月からの増減	+ 2 4	(今月の数値	7 5)
卸：前月からの増減	+ 1 1	(今月の数値	6 3)
小売等：前月からの増減	+ 1 6	(今月の数値	6 1)

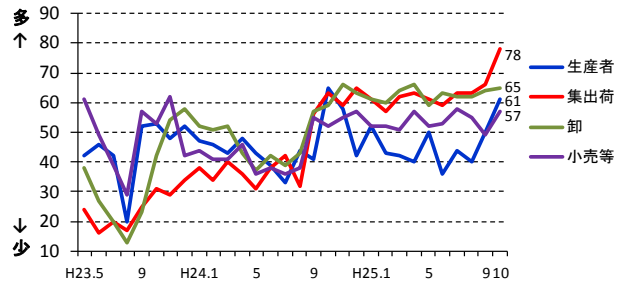
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+ 1 1	(今月の数値	6 1)
集出荷：前月からの増減	+ 1 2	(今月の数値	7 8)
卸：前月からの増減	+ 1	(今月の数値	6 5)
小売等：前月からの増減	+ 8	(今月の数値	5 7)

③-ア-a 貴社の「今月」の主食用米の「在庫量」について、「先月と比較」するといかですか。



③-ア-b 貴社の「今月」の主食用米の「在庫量」は、「前年同月と比較」するといかですか。



(イ) 来月の在庫量に関する見通し D I

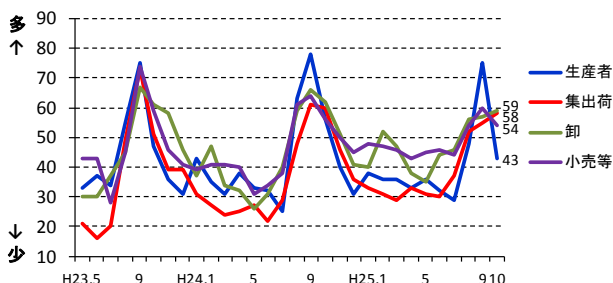
a. 今月との比較

生産者：前月からの増減	- 3 2	(今月の数値	4 3)
集出荷：前月からの増減	+ 3	(今月の数値	5 8)
卸：前月からの増減	+ 2	(今月の数値	5 9)
小売等：前月からの増減	- 6	(今月の数値	5 4)

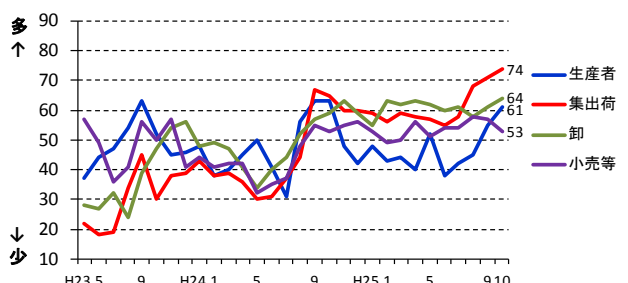
b. 前年同月との比較

生産者：前月からの増減	+ 6	(今月の数値	6 1)
集出荷：前月からの増減	+ 3	(今月の数値	7 4)
卸：前月からの増減	+ 3	(今月の数値	6 4)
小売等：前月からの増減	- 4	(今月の数値	5 3)

③-イ-a 貴社の「来月」の主食用米の「在庫量」について、「今月と比較」してどうなると考えていますか。



③-イ-b 貴社の「来月」の主食用米の「在庫量」について、「前年同月と比較」してどうなると考えていますか。



《アンケート方法等》

○調査期間：毎月１日から２５日までの取引状況を踏まえて回答

○調査方法：電子メールを利用したアンケート調査

○調査対象者：全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の１５２客体

○有効回答数：１２５客体

生産者・・・・・・・・・・・・・１１
集出荷業者／団体・・・・・・・・・・２９
卸売業者（主に主食用米）・・・・２８
小売業者／中食・外食関係業者・・３９
その他・・・・・・・・・・・・・１８

※「その他」は以下の業者を示している。
・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
・加工原材料米穀を使用し、加工食品（酒類を含む）を製造・販売する者

《利用上の注意》

○表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳は一致しないことがある。

《ＤＩの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する５段階の判断（評価）にそれぞれ点数（評価点）を与え、これらを各回答区分の構成比（％）に乗じてＤＩを算出。

ただし、ＤＩの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ（量感）を表すものではない。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じＤＩが算出されることに注意が必要である。

（ＤＩの算出例）

問：国内の主食用米の“向こう３ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	＋１	＋０. 75	＋０. 5	＋０. 25	０
構成比(B)	17. 8	20. 0	20. 0	22. 2	20. 0
各DI(C=A×B)	17. 8	15	10	5. 6	0
DI(合計)	48. 4				

Ⅱ 集出荷・卸段階の動向

(1) 相対取引価格・数量

① 相対取引価格(平成25年産米の主な産地銘柄別、平成25年9月)(速報)

(単位:円/玄米60kg)

産地　　　　　品種銘柄　（地域区分）				25年9月 ①	【参考】			
					25年8月 ②	〔対前月比 ①/②〕	24年9月 (24年産) ③	〔対前年 同期比 ①/③〕
北海道	北海道	ななつぼし		15,527	—	—	15,366	(101%)
	北海道	きらら397		14,658	—	—	15,318	(96%)
	北海道	ゆめびりか		18,043	—	—	—	—
東北	青森	まつしぐら		—	—	—	15,160	—
	青森	つがるロマン		—	—	—	15,404	—
	岩手	ひとめぼれ		14,360	—	—	15,829	(91%)
	岩手	あきたこまち		—	—	—	—	—
	宮城	ひとめぼれ		14,717	—	—	16,384	(90%)
	宮城	ササニシキ		—	—	—	—	—
	宮城	まなむすめ		—	—	—	—	—
	秋田	あきたこまち		14,481	—	—	17,020	(85%)
	秋田	ひとめぼれ		—	—	—	—	—
	秋田	めんこいな		—	—	—	—	—
	山形	はえぬき		—	—	—	16,451	—
	山形	つや姫		—	—	—	—	—
	山形	ひとめぼれ		—	—	—	—	—
	福島	コシヒカリ	中通り	—	—	—	—	—
	福島	コシヒカリ	会津	—	—	—	—	—
福島	コシヒカリ	浜通り	—	—	—	—	—	
福島	ひとめぼれ		—	—	—	15,929	—	
関東・東山	茨城	コシヒカリ		14,555	—	—	16,678	(87%)
	茨城	あきたこまち		13,177	—	—	—	—
	栃木	コシヒカリ		14,660	—	—	16,737	(88%)
	栃木	あさひの夢		—	—	—	—	—
	群馬	あさひの夢		—	—	—	—	—
	埼玉	彩のかがやき		—	—	—	—	—
	千葉	コシヒカリ		14,019	—	—	16,976	(83%)
	千葉	ふさこがね		13,022	—	—	—	—
	千葉	ふさおとめ		13,234	—	—	—	—
	長野	コシヒカリ		15,155	—	—	16,860	(90%)
北陸	新潟	コシヒカリ	一般	16,646	—	—	18,448	(90%)
	新潟	コシヒカリ	魚沼	21,335	—	—	23,781	(90%)
	新潟	コシヒカリ	岩船	—	—	—	18,813	—
	新潟	コシヒカリ	佐渡	17,013	—	—	18,854	(90%)
	新潟	こしいぶき		14,199	—	—	—	—
	富山	コシヒカリ		15,368	—	—	16,913	(91%)
	富山	てんたかく		—	—	—	—	—
	石川	コシヒカリ		15,278	—	—	16,814	(91%)
	石川	ゆめみづほ		—	—	—	—	—
	福井	コシヒカリ		15,609	—	—	17,512	(89%)
福井	ハナエチゼン		—	—	—	16,238	—	
東海・近畿	岐阜	ハツシモ		—	—	—	—	—
	愛知	あいちのかおり		—	—	—	—	—
	愛知	コシヒカリ		—	—	—	—	—
	三重	コシヒカリ	一般	15,054	—	—	17,128	(88%)
	滋賀	コシヒカリ		15,236	—	—	17,625	(86%)
	滋賀	キヌヒカリ		14,028	—	—	16,099	(87%)
	兵庫	コシヒカリ		15,476	—	—	17,257	(90%)
中国・四国	鳥取	コシヒカリ		—	—	—	—	—
	鳥取	ひとめぼれ		—	—	—	—	—
	島根	コシヒカリ		—	—	—	17,700	—
	島根	きぬむすめ		—	—	—	—	—
	岡山	アケボノ		—	—	—	—	—
	広島	コシヒカリ		—	—	—	16,226	—
	山口	コシヒカリ		15,053	—	—	17,049	(88%)
	徳島	コシヒカリ		13,157	—	—	16,736	(79%)
	香川	ヒノヒカリ		—	—	—	—	—
高知	コシヒカリ		14,498	—	—	—	—	
九州	福岡	ヒノヒカリ		—	—	—	—	—
	福岡	夢つくし		16,832	—	—	—	—
	佐賀	夢しずく		—	—	—	—	—
	熊本	ヒノヒカリ		—	—	—	—	—
	大分	ヒノヒカリ		—	—	—	—	—
	宮崎	コシヒカリ		—	—	—	—	—
	鹿児島	ヒノヒカリ		—	—	—	—	—
全銘柄平均価格				14,871	—	—	16,650	(89.3%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 相対取引価格は、ア 全国出荷団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者と卸売業者等の主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点を基準としている。）の価格（運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格。）であり、その契約数量を用いて加重平均した価格である。その際、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地銘柄については受渡地を西日本としているものを加重平均している。

2 また、相対取引価格は、個々の契約数量に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて等級及び付加価値等（栽培方法等）の価格調整が行われることがある。

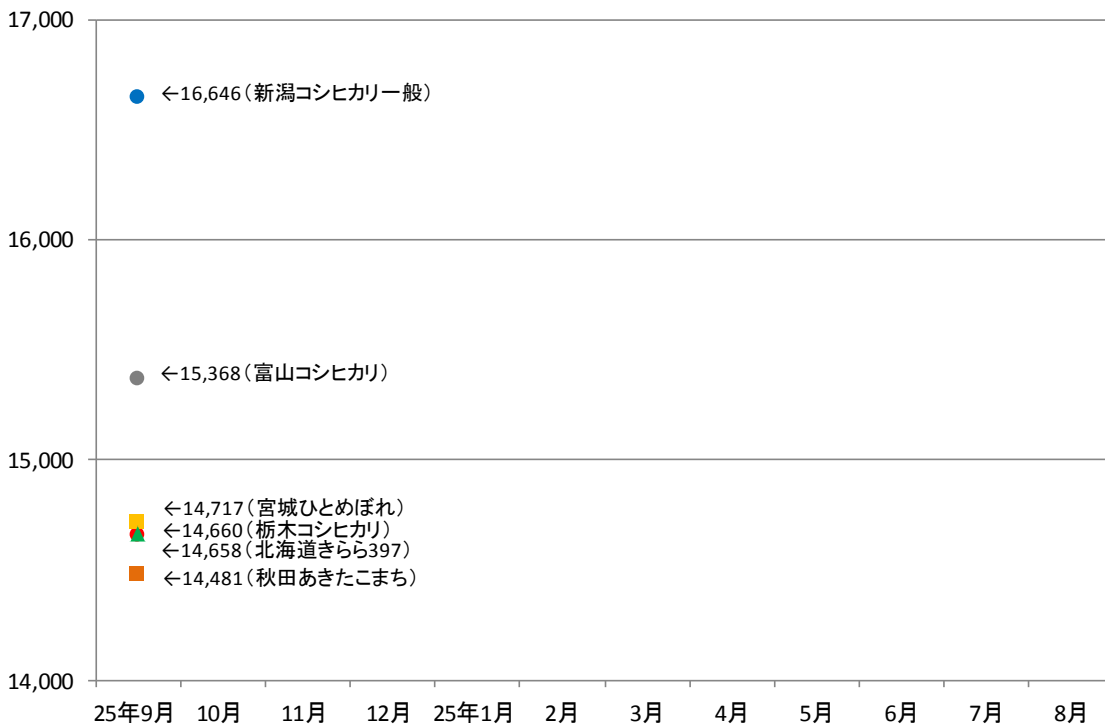
3 産地銘柄は、報告対象産地銘柄のうち24年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のものであり、価格は月1,000トン以上の取引があったものである。

4 全銘柄平均価格は、報告対象産地銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均した価格である。

5 24年9月は24年産の価格である。

② 相対取引価格の推移（主な産地銘柄別、平成25年産米）

（単位：円/玄米60kg、税込）



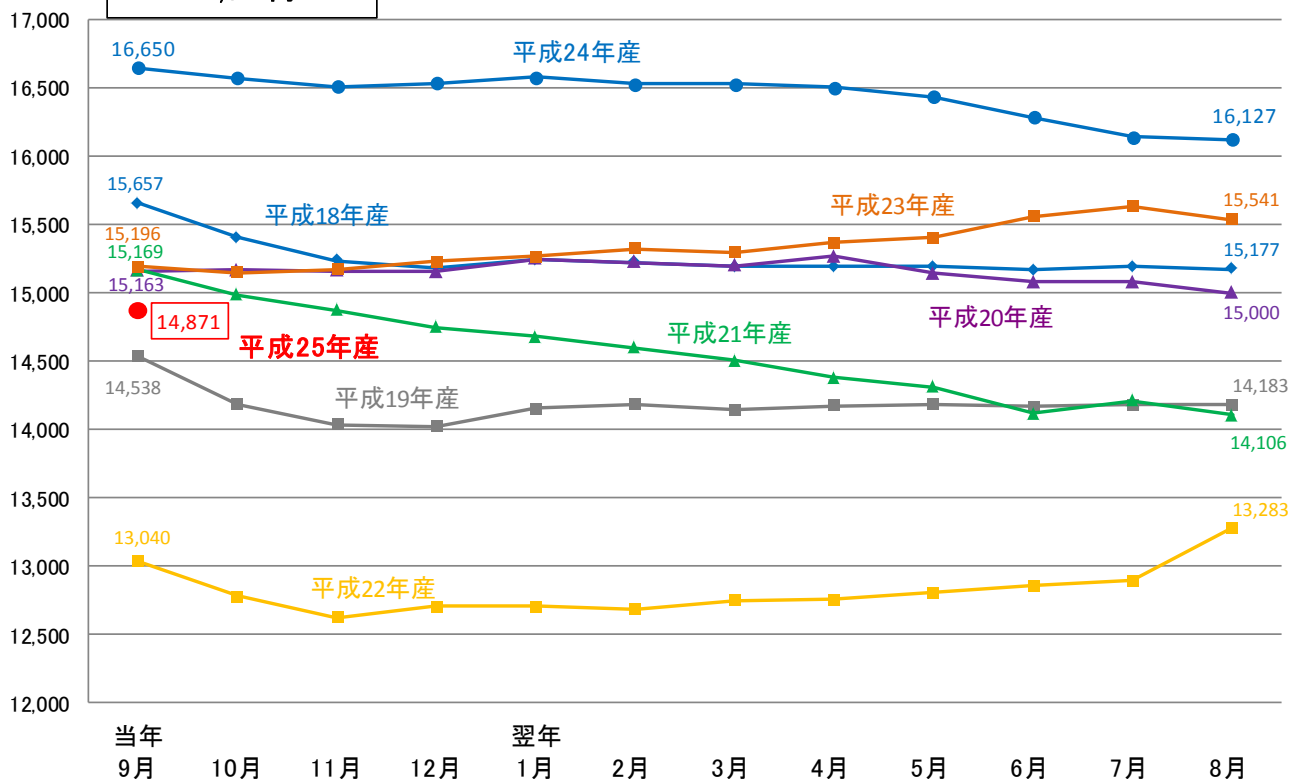
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：相対取引価格に関する留意点については、6ページの注を参照。

③ 相対取引価格（年産別）

平成25年産(9月)
14,871円

（単位：円/玄米60kg、税込）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：相対取引価格に関する留意点については、6ページの注を参照。

④ 相対取引数量

(累積数量、平成25年産米の主な産地銘柄別、平成25年9月)(速報)

(単位：玄米トン)

産地 品種銘柄 地域区分			25年産 (25年9月まで) ①	(前年比) ①/②	(前々年比) ①/③	24年産 (24年9月まで) ②	23年産 (23年9月まで) ③
北海道	北海道	ななつぼし	23,374	(44%)	(78%)	53,354	30,047
	北海道	きらら397	11,632	(60%)	(145%)	19,435	8,005
	北海道	ゆめぴりか	7,989	—	—	—	—
東北	青森	まっしぐら	374	(15%)	(20%)	2,496	1,866
	青森	つがるロマン	472	(26%)	(10%)	1,797	4,761
	岩手	ひとめぼれ	1,901	(41%)	(71%)	4,632	2,659
	岩手	あきたこまち	191	(38%)	(39%)	504	486
	宮城	ひとめぼれ	1,925	(97%)	(83%)	1,989	2,320
	宮城	ササニシキ	265	(110%)	(141%)	242	188
	宮城	まなむすめ	65	—	(1080%)	—	6
	秋田	あきたこまち	3,497	(63%)	(64%)	5,543	5,440
	秋田	ひとめぼれ	11	(2%)	(10%)	440	104
	秋田	めんこいな	—	—	—	11	—
	山形	はえぬき	695	(37%)	(32%)	1,861	2,162
	山形	つや姫	398	—	—	—	—
	山形	ひとめぼれ	439	(70%)	(81%)	629	541
	福島	コシヒカリ	—	—	—	—	—
関東・東山	福島	コシヒカリ	60	—	—	—	—
	福島	コシヒカリ	36	—	—	—	—
	福島	ひとめぼれ	416	(36%)	(36%)	1,158	1,145
	茨城	コシヒカリ	4,461	(65%)	(76%)	6,846	5,851
	茨城	あきたこまち	1,795	(24%)	(48%)	7,629	3,706
	栃木	コシヒカリ	2,301	(80%)	(73%)	2,882	3,151
	栃木	あさひの夢	112	(201%)	(154%)	56	72
	群馬	あさひの夢	—	—	—	—	—
	埼玉	彩のかがやき	98	—	(209%)	—	47
	千葉	コシヒカリ	6,337	(42%)	(56%)	14,976	11,289
	千葉	ふさこがね	2,803	(27%)	(25%)	10,535	11,162
	千葉	ふさおとめ	6,160	(64%)	(47%)	9,611	13,113
	長野	コシヒカリ	4,729	(246%)	(231%)	1,921	2,050
北陸	新潟	コシヒカリ	8,140	(93%)	(54%)	8,729	15,190
	新潟	コシヒカリ	2,277	(112%)	(72%)	2,026	3,169
	新潟	コシヒカリ	885	(77%)	(37%)	1,147	2,391
	新潟	コシヒカリ	1,494	(115%)	(61%)	1,299	2,443
	新潟	こしいぶき	3,947	(83%)	(47%)	4,771	8,451
	富山	コシヒカリ	6,539	(22%)	(65%)	29,677	10,113
	富山	てんたかく	1,742	(39%)	(48%)	4,447	3,641
	石川	コシヒカリ	1,169	(57%)	(66%)	2,060	1,772
	石川	ゆめみづほ	73	(8%)	(8%)	868	953
	福井	コシヒカリ	1,928	(57%)	(33%)	3,412	5,771
東海・近畿	福井	ハナエチゼン	4,596	(51%)	(100%)	9,003	4,599
	岐阜	ハツシモ	—	—	—	—	—
	愛知	あいちのかおり	—	—	—	3,233	3,683
	愛知	コシヒカリ	520	(14%)	(14%)	3,600	3,733
	三重	コシヒカリ	1,844	(60%)	(34%)	3,077	5,451
	滋賀	コシヒカリ	3,746	(61%)	(81%)	6,152	4,649
中国・四国	滋賀	キヌヒカリ	2,393	(66%)	(146%)	3,626	1,641
	兵庫	コシヒカリ	1,428	(134%)	(85%)	1,064	1,690
	鳥取	コシヒカリ	408	(74%)	(17%)	549	2,416
	鳥取	ひとめぼれ	733	(87%)	(25%)	844	2,914
	島根	コシヒカリ	1,249	(52%)	(20%)	2,417	6,218
	島根	きぬむすめ	724	(85%)	(69%)	856	1,054
	岡山	アケボノ	—	—	—	—	—
	広島	コシヒカリ	1,105	(56%)	(65%)	1,975	1,712
	山口	コシヒカリ	1,295	(75%)	(41%)	1,719	3,170
	徳島	コシヒカリ	3,882	(66%)	(80%)	5,921	4,872
	香川	ヒノヒカリ	—	—	—	—	—
	高知	コシヒカリ	2,589	(76%)	(70%)	3,424	3,704
九州	福岡	ヒノヒカリ	—	—	—	8	—
	福岡	夢つくし	1,981	(102%)	(84%)	1,951	2,354
	佐賀	夢しずく	310	(60%)	(29%)	514	1,063
	熊本	ヒノヒカリ	12	(10%)	(28%)	126	43
	大分	ヒノヒカリ	—	—	—	—	—
	宮崎	コシヒカリ	4,554	(71%)	(74%)	6,457	6,160
産地銘柄は、報告対象産地銘柄のうち、24年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のもの。			—	—	—	—	—
全銘柄合計契約数量			156,928	(52%)	(60%)	299,126	260,808

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 相対取引数量は、ア 全国団体、イ 年間の玄米仕入数量が5,000トン以上の道県出荷団体等、ウ 年間の直接販売数量が5,000トン以上の出荷業者が、卸売業者等と主食用の相対取引契約（数量と価格が決定した時点等を基準としている。）を行った数量（1等米の数量）である。
 なお、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本の産地銘柄）については受渡地を西日本としているものを対象としている。

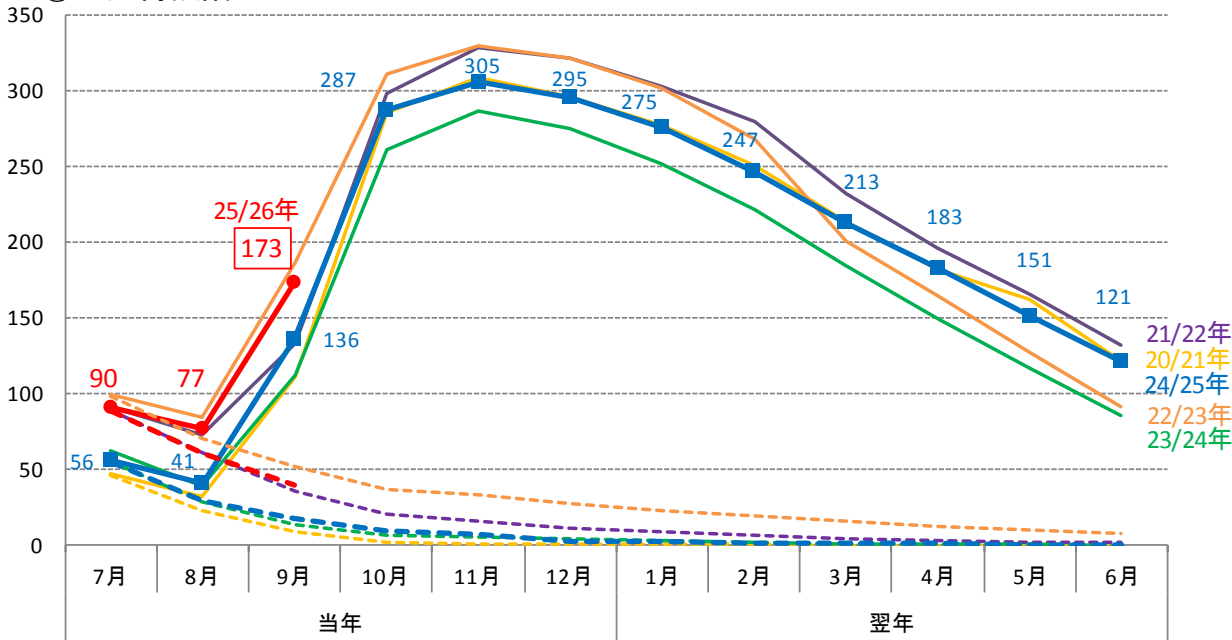
2 産地銘柄は、報告対象産地銘柄のうち、24年産の農産物検査受検数量原則15,000トン以上のもの。

3 全銘柄合計契約数量は、農林水産省が公表している相対取引価格の報告対象銘柄の契約数量の合計。

(2) 民間在庫の推移

① 出荷段階

単位: 万トン



注: グラフ中の実線は総在庫数量。破線は1年古米在庫数量である。

【出荷段階】

(単位: 万トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
20/21年	47	32	111	285	308	296	277	251	214	182	163	121
対前年差	▲16	▲16	▲19	▲7	▲5	+7	+8	+15	+47	+47	+57	+47
1年古米	46	23	9	1	1	1	0	0	0	0	0	0
新米	1	8	101	281	305	293	275	249	212	181	162	121
21/22年	91	73	133	299	328	321	303	279	232	197	165	132
対前年差	+44	+41	+22	+14	+20	+25	+26	+28	+18	+15	+2	+11
1年古米	90	61	36	21	15	11	9	7	5	3	2	2
新米	1	11	96	275	309	308	291	271	225	191	162	130
22/23年	100	85	187	311	329	321	301	268	201	164	128	92
対前年差	+9	+12	+54	+12	+1	▲0	▲1	▲11	▲31	▲32	▲37	▲40
1年古米	99	70	51	37	34	28	23	20	16	13	11	8
新米	0	13	134	271	294	291	276	247	184	151	117	82
23/24年	62	39	112	260	286	275	252	222	185	150	117	86
対前年差	▲38	▲46	▲75	▲50	▲43	▲45	▲49	▲46	▲16	▲15	▲11	▲6
1年古米	55	29	14	7	6	4	3	2	1	1	0	0
新米	0	5	94	249	276	266	245	217	182	148	116	85
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
1年古米	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
新米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
25/26年	90	77	173									
対前年差	+34	+35	+37									
1年古米	89	61	40									
新米	1	16	132									

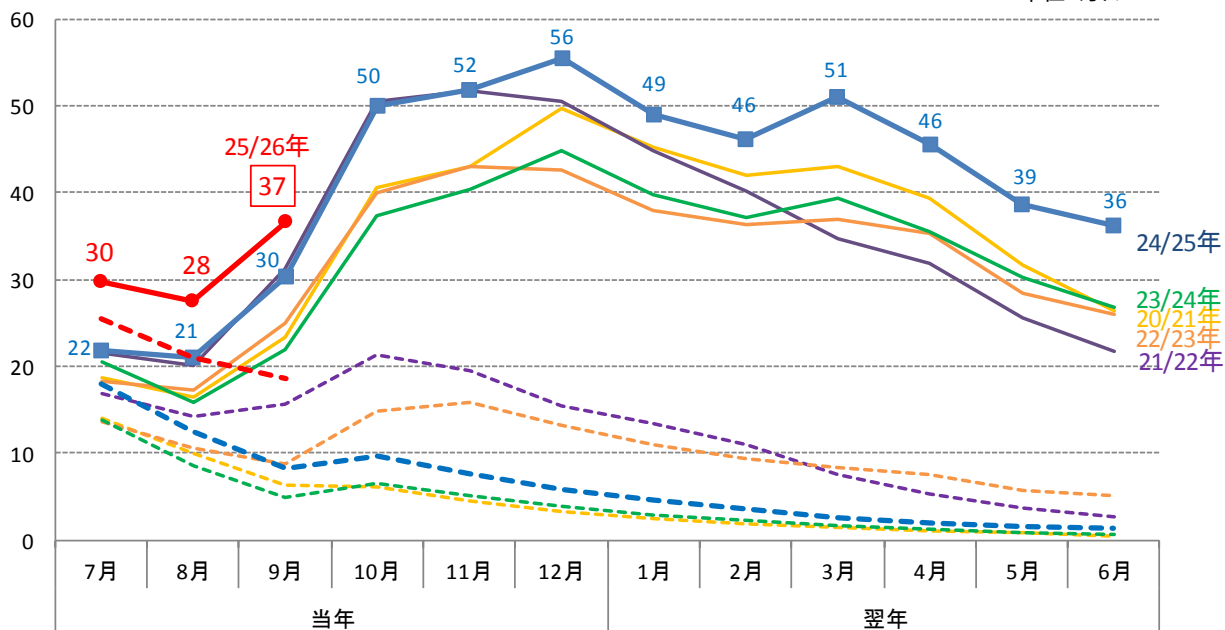
資料: 農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」(～20年7月)

農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」(20年8月～)

- 注: 1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米の月末在庫量(玄米換算)の値である。
2 米穀の出荷の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が500トン以上の者の値である。
3 期間については、23/24年であれば、23年7月～24年6月である。
4 22/23年7月末以降は、速報値である。
5 23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。
6 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

② 販売段階

単位：万トン



注：グラフ中の実線は総在庫数量。破線は1年古米在庫数量である。

【販売段階】

（単位：万トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
20/21年	19	17	23	41	43	50	45	42	43	39	32	26
対前年差	▲0	▲1	+2	+4	+3	+2	+2	+2	+5	+4	+6	+3
1年古米	14	10	6	6	5	3	3	2	1	1	1	0
新米	0	3	12	26	28	36	34	32	34	32	26	21
21/22年	22	20	31	51	52	51	45	40	35	32	26	22
対前年差	+3	+4	+8	+10	+9	+1	▲0	▲2	▲8	▲7	▲6	▲5
1年古米	17	14	16	21	20	15	13	11	7	5	4	3
新米	0	3	11	22	24	27	24	23	22	22	18	16
22/23年	18	17	25	40	43	43	38	36	37	35	28	26
対前年差	▲3	▲3	▲6	▲11	▲9	▲8	▲7	▲4	+2	+3	+3	+4
1年古米	14	11	9	15	16	13	11	9	8	8	6	5
新米	0	3	12	19	21	23	21	22	24	23	19	17
23/24年	21	16	22	37	40	45	40	37	39	35	30	27
対前年差	+2	▲1	▲3	▲3	▲3	+2	+2	+1	+2	+0	+2	+1
1年古米	14	9	5	6	5	4	3	2	2	1	1	1
新米	0	3	13	24	28	34	30	29	32	30	25	23
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
1年古米	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
新米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
25/26年	30	28	37									
対前年差	+8	+7	+6									
1年古米	25	21	19									
新米	0	3	13									

資料：農林水産省「米麦の出荷又は販売の事業を行う者等の流通状況調査」（～20年7月）

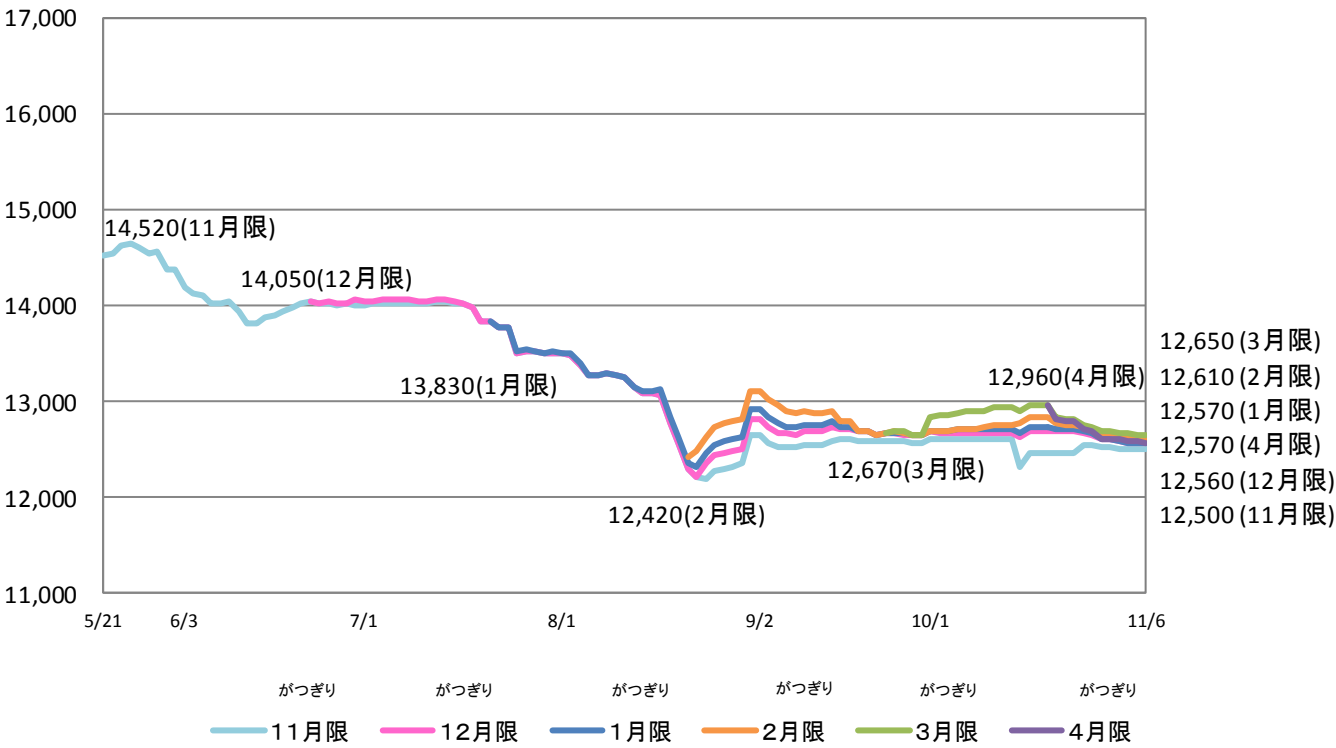
農林水産省「米穀の取引に関する報告徴収」（20年8月～）

- 注：1 水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 米穀の販売の事業を行う者であって、年間の玄米取扱数量が4,000トン以上の者の値である。
 3 期間については、23/24年であれば、23年7月～24年6月である。
 4 22/23年7月以降の値は、速報値である。
 5 23年3月以降の値は、東日本大震災の影響により一部見込みが含まれている。
 6 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(3) 米の先物取引価格の推移

①東京コメ

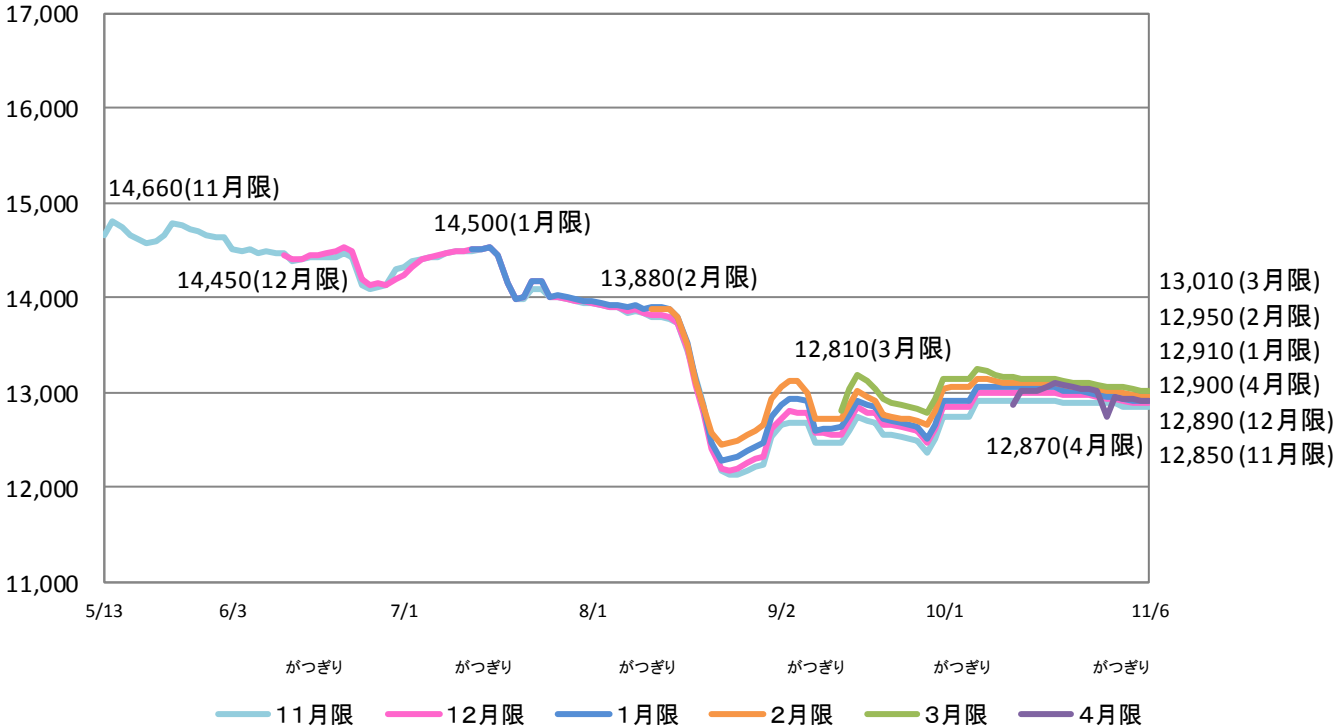
円/60Kg



出典:大阪堂島商品取引所
注:取引開始から本レポート公表日の2日前の後場第3節までの価格の推移である。

②大阪コメ

円/60Kg



出典:大阪堂島商品取引所
注:取引開始から本レポート公表日の2日前の後場第3節までの価格の推移である。

(4) 業者間取引の状況

① 日本コメ市場（随時取引の結果）

○ 価格は、主にスポット取引の価格であり、相当期間にわたり安定的に行う取引の価格とは性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。

関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg

年産・産地銘柄		9月下旬	10月上旬	10月下旬
25年産	秋田あきたこまち	13,293	13,215	13,336
25年産	福島中通りコシヒカリ	－	12,500	－
25年産	茨城コシヒカリ	－	－	12,865
25年産	新潟一般コシヒカリ	15,469	－	－

出典： 日本コメ市場株式会社HP

- 注： 1 随時取引とは、取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引である。
2 上記価格は、日本コメ市場株の取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
3 上期は、1日から15日まで、下期は、16日から月末までを示す。
4 「－」に関しては、成約数量が日本コメ市場の内部規程で定める基準を満たさなかったため非公表。

② 日本コメ市場・クリスタルライス（取引会の結果）
（主たる銘柄の成約状況）

関東到着基準、1等、包装代込、税抜き、円/60kg

年産・産地銘柄		平成25年度							
		第1回 4月25日		第2回 7月18日		第3回 8月29日		第4回 10月10日	
		成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量	成約価格	成約数量
24年産	北海道きらら397	－	－	14,600	20	－	－	－	－
24年産	秋田あきたこまち	14,971	46	13,820	73	－	－	－	－
24年産	福島ひとめぼれ	14,750	24	13,107	37	－	－	－	－
24年産	福島チヨニシキ	14,350	28	－	－	－	－	－	－
24年産	茨城コシヒカリ	14,898	38	13,585	43	－	－	－	－
24年産	新潟一般コシヒカリ	16,557	84	－	－	－	－	－	－
24年産	富山コシヒカリ	－	－	14,875	24	－	－	－	－
25年産	秋田あきたこまち	－	－	－	－	－	－	13,304	173
25年産	茨城コシヒカリ	－	－	－	－	12,661	55	12,711	56
25年産	茨城ひとめぼれ	－	－	－	－	12,200	37	12,175	24
25年産	茨城あきたこまち	－	－	－	－	12,270	180	－	－
25年産	茨城チヨニシキ	－	－	－	－	11,900	60	－	－
25年産	千葉ふさがね	－	－	－	－	－	－	12,300	36
25年産	千葉ふさおとめ	－	－	－	－	12,210	30	－	－
25年産	新潟一般コシヒカリ	－	－	－	－	－	－	15,267	36
成約米穀の平均価格(加重平均)		15,446	362	14,020	435	12,584	669	13,137	904

出典： 日本コメ市場株式会社HP

- 注： 1 取引会における取引は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において開催される取引会において入札により行われるものである。
2 価格は、取引における成約価格を取引数量により加重平均したものである。
3 「－」は、同社のホームページにおいて非公表を示す。

(5) (株) 加工用米取引センターの取引結果

【平成25年産】

(単位: 成約数量・トン、成約価格・円/60kg (包装代込み・税抜き))

取引日	産地、銘柄	等級	成約数量	成約価格
平成25年 9月3日	茨城コシヒカリ(主食用)	1等	13	12,900
9月24日	茨城コシヒカリ(主食用)	1等	26	12,900
9月24日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	12	15,500
10月11日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	12	14,950
10月11日	北海道きらら397(主食用)	1等	5	13,920
10月11日	山形ササニシキ(主食用)	1等	5	14,350

取引日	産地、銘柄	等級	成約数量	成約価格
10月18日	島根きぬむすめ(主食用)	1等	12	13,550
10月22日	茨城コシヒカリ(主食用)	1等	26	12,900
10月23日	千葉ひとめぼれ(主食用)	1等	7	12,200
11月6日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	12	13,650
11月6日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	24	13,550

【平成24年産】

(単位: 成約数量・トン、成約価格・円/60kg (包装代込み・税抜き))

取引日	産地、銘柄	等級	成約数量	成約価格
平成24年 9月3日	千葉ふさおとめ(主食用)	1等	40	15,800
9月3日	千葉ふさおとめ(主食用)	1等	40	15,700
9月6日	三重コシヒカリ(主食用)	1等	13	16,500
9月14日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	11	17,050
9月24日	福井ハナエチゼン(主食用)	1等	13	16,250
9月25日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	11	16,450
9月25日	新潟コシヒカリ(岩船)(主食用)	1等	12	18,200
9月25日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	12	18,200
9月26日	北海道きらら397(主食用)(フレコン)	1等	21	15,350
9月26日	北海道きらら397(主食用)	1等	10	15,670
9月28日	山形はえぬき(主食用)	1等	13	15,600
9月28日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	11	18,450
9月28日	新潟コシヒカリ(魚沼)(主食用)	1等	11	23,150
9月28日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	12	17,550
10月1日	宮城ひとめぼれ(特裁米)(主食用)	1等	13	16,050
10月1日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	12	18,350
10月9日	山形はえぬき(主食用)	1等	13	15,600
10月9日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	12	18,350
10月11日	北海道きらら397(主食用)	1等	10	15,490
10月12日	青森まっしぐら(主食用)	1等	32	15,520
10月16日	北海道きらら397(主食用)	1等	102	15,490
10月23日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	5	17,450
11月2日	山形はえぬき(主食用)	1等	13	15,600
11月9日	佐賀ヒヨクモチ(主食用)	2等	13	14,050
11月12日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	12	12,750
11月15日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	12	12,650
11月20日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	86	16,700
11月21日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	12	17,600
11月21日	新潟コシヒカリ(魚沼)(主食用)	1等	11	23,150
11月22日	千葉ふさこがね(主食用)	1等	72	15,400

取引日	産地、銘柄	等級	成約数量	成約価格
11月22日	山形はえぬき(主食用)	1等	26	15,600
11月29日	香川コシヒカリ(主食用)	2等	13	16,450
12月10日	熊本ヒヨクモチ(主食用)	2等	11	12,950
12月13日	岩手あきたこまち(主食用)	1等	24	16,000
12月17日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	5	18,550
平成25年 1月17日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	11	17,000
1月18日	岩手あきたこまち(主食用)	1等	12	16,000
1月24日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	11	17,000
1月24日	新潟コシヒカリ(佐渡)(主食用)	1等	5	18,550
1月29日	富山コシヒカリ(主食用)	1等	60	16,810
1月29日	富山コシヒカリ(主食用)	2等	60	16,210
2月12日	三重コシヒカリ(主食用)	1等	6	16,270
2月12日	三重コシヒカリ(主食用)	2等	6	15,670
2月18日	三重コシヒカリ(主食用)	1等	30	16,200
2月18日	三重コシヒカリ(主食用)	2等	30	15,600
2月18日	鳥取コシヒカリ(主食用)	2等	24	16,050
2月26日	新潟コシヒカリ(主食用)	1等	5	17,650
2月26日	秋田ひとめぼれ(主食用)	1等	79	15,900
3月12日	岩手あきたこまち(主食用)	1等	36	16,000
4月19日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	66	16,200
4月19日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	53	16,150
7月8日	福島コシヒカリ(会津)(主食用)	1等	13	15,700
8月6日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	184	14,350
8月7日	山形はえぬき(主食用)	1等	36	12,600
8月7日	山形はえぬき(主食用)	1等	60	12,750
8月8日	山形はえぬき(主食用)	1等	12	12,700
8月29日	秋田ひとめぼれ(主食用)	1等	5	16,150
9月6日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	24	13,400
9月13日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	37	13,400
9月19日	秋田あきたこまち(主食用)	1等	24	13,400

資料: (株)加工用米取引センターHP

注: 1 すべて玄米60kg当たりの価格。

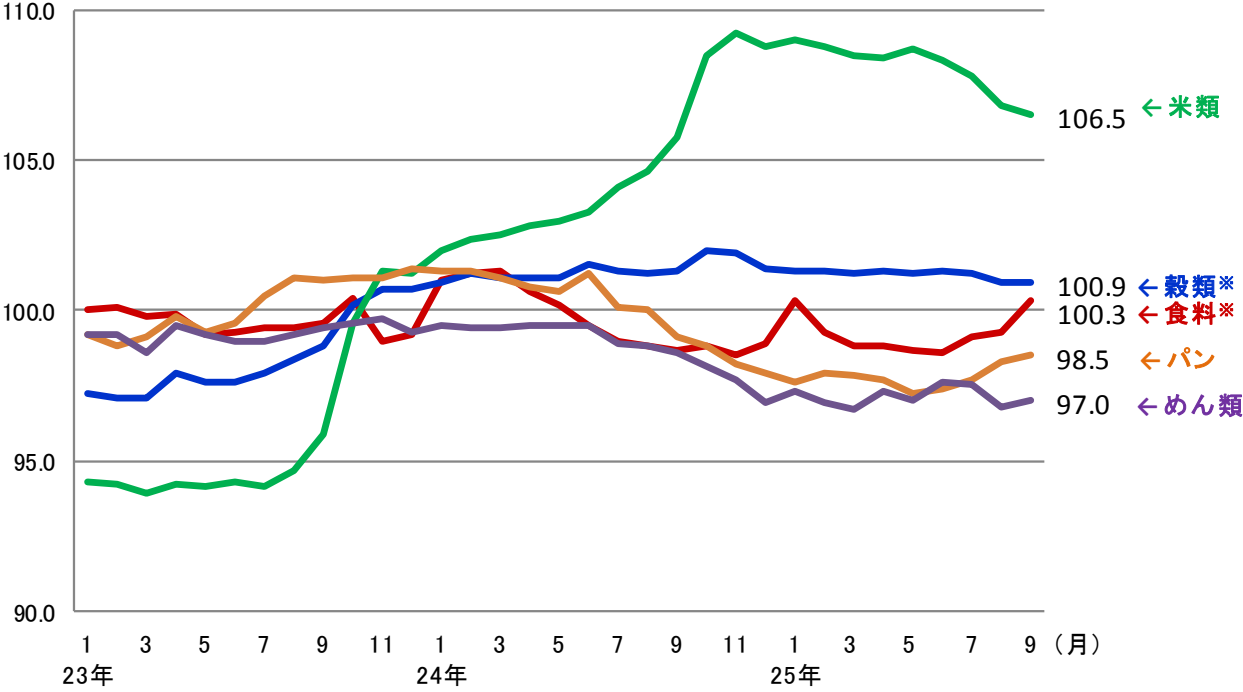
2 商品形態は、玄米30kg紙袋である。ただし、売側・買側の合意があった場合には、フレコンも可とされている。

3 成約価格は、着地持込価格。

Ⅲ 小売・消費段階の動向

(1) 消費者物価指数の推移

(図) 消費者物価指数の推移



注：1 図中の実線は、平成22年の平均価格を100とした数値となる。
2 図中の数値は、平成25年9月の消費者物価指数となる。
3 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

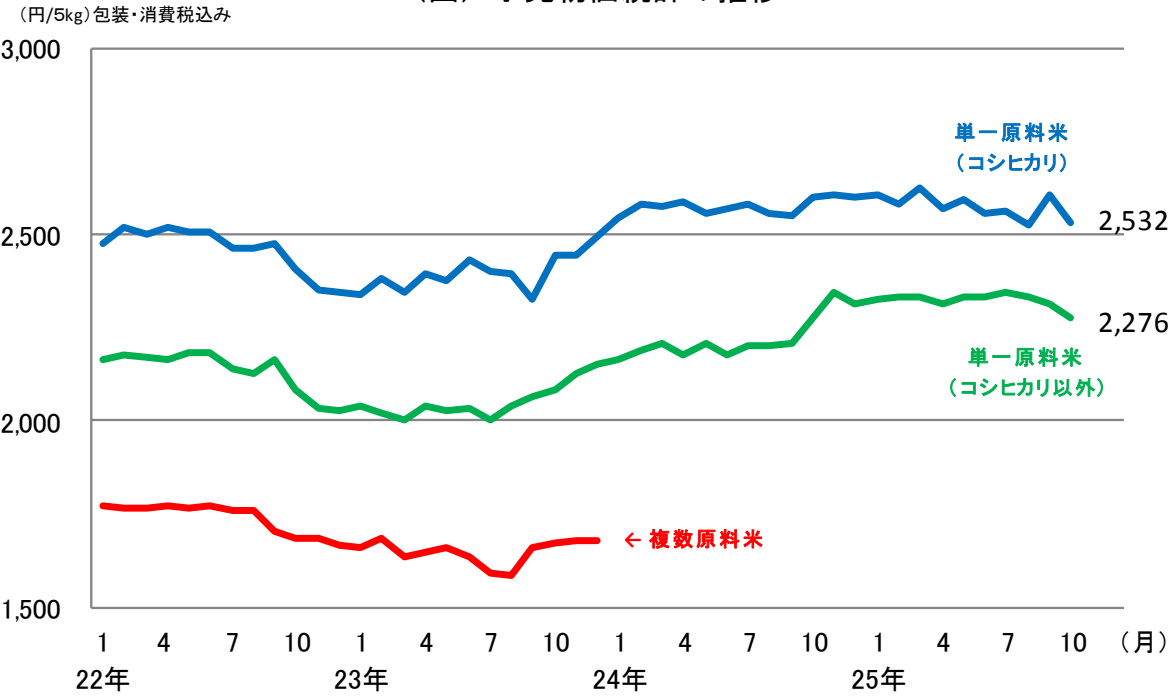
(表) 消費者物価指数の推移（対前年同月比）

	食料		穀類		米類		うち米		パン		めん類	
		対前年 同月比		対前年 同月比		対前年 同月比		対前年 同月比		対前年 同月比		対前年 同月比
平成17年	96.8	▲0.9%	98.5	▲6.6%	109.8	▲13.3%	109.8	▲12.9%	91.6	▲1.1%	91.2	▲0.9%
平成18年	97.3	0.5%	96.8	▲1.7%	106.4	▲3.1%	106.5	▲3.0%	91.5	▲0.1%	90.1	▲1.2%
平成19年	97.6	0.3%	96.4	▲0.4%	104.5	▲1.8%	104.7	▲1.7%	92.1	0.7%	89.7	▲0.4%
平成20年	100.1	2.6%	102.6	6.4%	103.2	▲1.2%	103.4	▲1.2%	103.8	12.7%	100.2	11.7%
平成21年	100.3	0.2%	103.3	0.7%	103.6	0.4%	103.6	0.2%	104.0	0.2%	101.9	1.7%
平成22年	100.0	▲0.3%	100.0	▲3.2%	100.0	▲3.5%	100.0	▲3.5%	100.0	▲3.8%	100.0	▲1.9%
平成23年	99.6	▲0.4%	98.4	▲1.6%	96.0	▲4.0%	95.9	▲4.1%	100.2	0.2%	99.2	▲0.8%
平成24年	99.7	0.1%	101.3	2.9%	104.8	9.2%	105.1	9.6%	100.0	▲0.2%	98.8	▲0.4%
平成24年1月	101.0	1.0%	100.9	3.8%	102.0	8.2%	102.3	8.5%	101.3	2.1%	99.5	0.3%
2月	101.2	1.1%	101.2	4.2%	102.4	8.7%	102.7	9.3%	101.3	2.5%	99.4	0.2%
3月	101.3	1.5%	101.1	4.1%	102.5	9.2%	102.8	9.6%	101.1	2.0%	99.4	0.8%
4月	100.6	0.7%	101.1	3.3%	102.8	9.1%	103.0	9.5%	100.8	1.0%	99.5	0.0%
5月	100.2	1.0%	101.1	3.6%	103.0	9.5%	103.2	9.9%	100.6	1.3%	99.5	0.3%
6月	99.5	0.2%	101.5	4.0%	103.3	9.5%	103.6	10.1%	101.2	1.6%	99.5	0.5%
7月	99.0	▲0.4%	101.3	3.5%	104.1	10.6%	104.4	11.1%	100.1	▲0.4%	98.9	▲0.1%
8月	98.8	▲0.6%	101.2	2.8%	104.6	10.5%	104.9	10.9%	100.0	▲1.1%	98.8	▲0.4%
9月	98.7	▲0.9%	101.3	2.5%	105.8	10.3%	106.3	11.0%	99.1	▲1.9%	98.6	▲0.8%
10月	98.8	▲1.6%	102.0	1.8%	108.5	8.9%	109.0	9.3%	98.8	▲2.3%	98.1	▲1.5%
11月	98.5	▲0.5%	101.9	1.2%	109.2	7.8%	109.7	8.1%	98.2	▲2.9%	97.7	▲2.0%
12月	98.9	▲0.3%	101.4	0.7%	108.8	7.5%	109.5	7.9%	97.9	▲3.5%	96.9	▲2.4%
平成25年1月	100.3	▲0.7%	101.3	0.4%	109.0	6.9%	109.6	7.1%	97.6	▲3.7%	97.3	▲2.2%
2月	99.3	▲1.9%	101.3	0.1%	108.8	6.3%	109.3	6.4%	97.9	▲3.4%	96.9	▲2.5%
3月	98.8	▲2.5%	101.2	0.1%	108.5	5.9%	109.1	6.1%	97.8	▲3.3%	96.7	▲2.7%
4月	98.8	▲1.8%	101.3	0.2%	108.4	5.4%	108.9	5.7%	97.7	▲3.1%	97.3	▲2.2%
5月	98.7	▲1.5%	101.2	0.1%	108.7	5.5%	109.2	5.8%	97.2	▲3.4%	97.0	▲2.5%
6月	98.6	▲0.9%	101.3	▲0.2%	108.3	4.8%	108.8	5.0%	97.4	▲3.8%	97.6	▲1.9%
7月	99.1	0.1%	101.2	▲0.1%	107.8	3.6%	108.3	3.7%	97.7	▲2.4%	97.5	▲1.4%
8月	99.3	0.5%	100.9	▲0.3%	106.8	2.1%	107.3	2.3%	98.3	▲1.7%	96.8	▲2.0%
9月	100.3	1.6%	100.9	▲0.4%	106.5	0.7%	107.0	0.7%	98.5	▲0.6%	97.0	▲1.6%

資料： 総務省「消費者物価指数」（平成22年基準）
注：1 表中の数値は、平成22年の平均価格を100として指数化したものである。
2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
4 平成17年から平成24年のデータは年平均、平成24年1月以降は月次データを用いている。

(2) 小売物価統計の推移

(図) 小売物価統計の推移



(表) 小売物価統計の推移

(単位: 円/5kg 包装・消費税込み)

	うるち米		
	単一原料米 (コシヒカリ)	単一原料米 (コシヒカリ以外)	複数原料米
平成17年	2,804	2,375	2,040
平成18年	2,744	2,341	1,996
平成19年	2,670	2,288	1,950
平成20年	2,610	2,270	1,832
平成21年	2,531	2,201	1,812
平成22年	2,462	2,136	1,739
平成23年	2,399	2,053	1,649
平成24年	2,577	2,223	-
平成24年1月	2,545	2,165	-
2月	2,585	2,188	-
3月	2,576	2,209	-
4月	2,592	2,178	-
5月	2,559	2,206	-
6月	2,568	2,177	-
7月	2,583	2,205	-
8月	2,557	2,202	-
9月	2,550	2,210	-
10月	2,604	2,276	-
11月	2,609	2,345	-
12月	2,600	2,315	-
平成25年1月	2,608	2,330	-
2月	2,585	2,336	-
3月	2,627	2,331	-
4月	2,573	2,313	-
5月	2,593	2,331	-
6月	2,559	2,331	-
7月	2,566	2,347	-
8月	2,530	2,333	-
9月	2,609	2,313	-
10月	2,532	2,276	-

資料: 総務省「小売物価統計」

注1: 東京都区部の数値である。

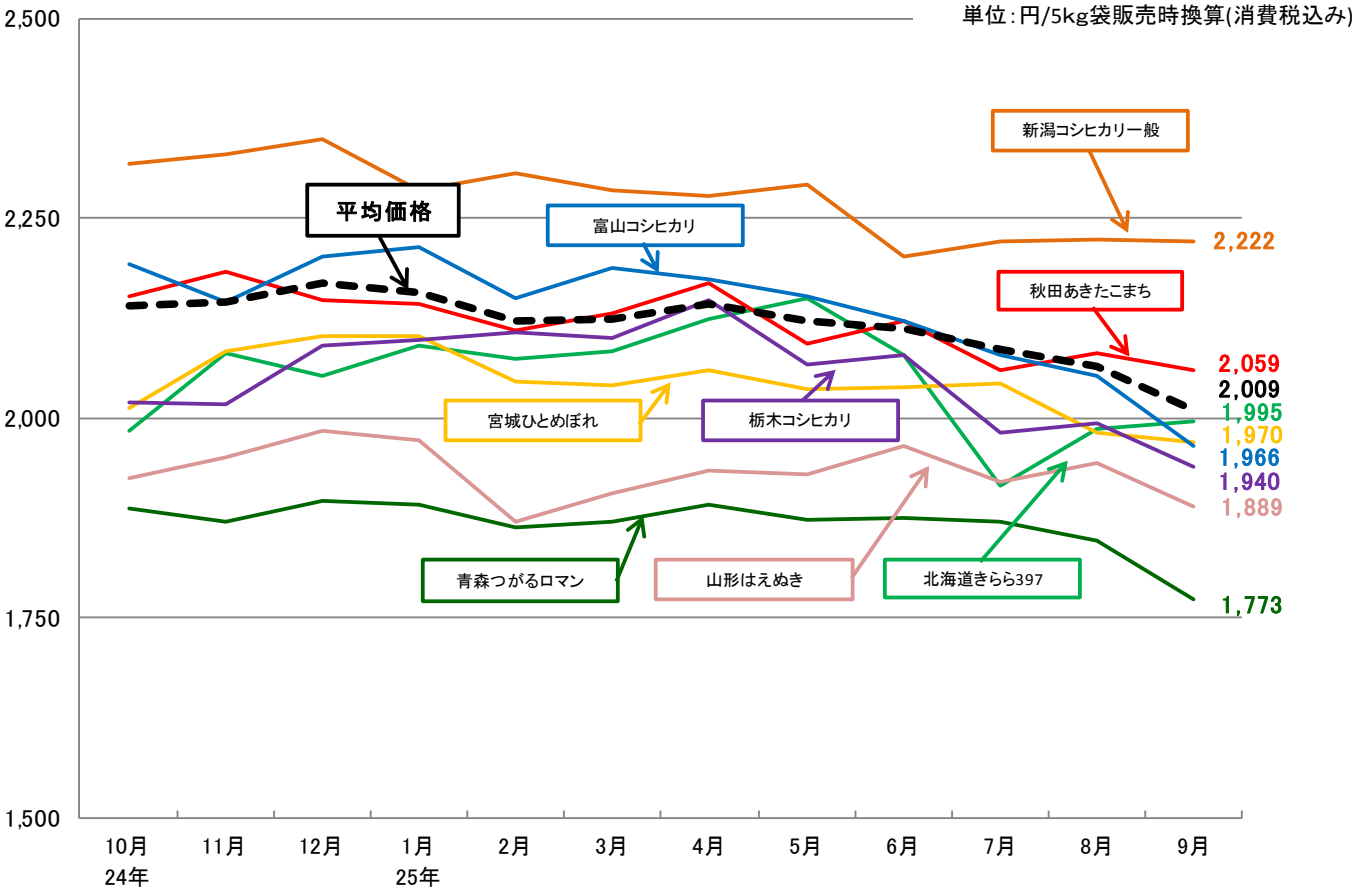
2: 特売を除いた価格である。

3: 精米ベースである。

4: 複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(3) 小売価格の推移 (POSデータ)

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位:円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄								
	北海道 きらら397	青森 つがるロマン	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	栃木 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	富山 コシヒカリ	全POS取引 平均価格
24年10月	1,983	1,887	2,013	2,152	1,925	2,020	2,318	2,193	2,140
11月	2,081	1,869	2,084	2,183	1,951	2,017	2,331	2,145	2,145
12月	2,052	1,897	2,103	2,147	1,984	2,090	2,350	2,203	2,170
25年1月	2,091	1,891	2,102	2,144	1,972	2,097	2,285	2,215	2,156
2月	2,075	1,863	2,045	2,110	1,869	2,108	2,307	2,150	2,122
3月	2,084	1,871	2,041	2,131	1,905	2,100	2,286	2,188	2,125
4月	2,124	1,891	2,059	2,168	1,935	2,147	2,279	2,174	2,143
5月	2,150	1,873	2,036	2,093	1,930	2,066	2,293	2,152	2,122
6月	2,079	1,876	2,038	2,121	1,964	2,079	2,201	2,122	2,111
7月	1,915	1,869	2,043	2,060	1,921	1,981	2,220	2,080	2,086
8月	1,986	1,847	1,982	2,082	1,943	1,993	2,223	2,053	2,064
9月	1,995	1,773	1,970	2,059	1,889	1,940	2,222	1,966	2,009

資料: (株) KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注: 1 (株) KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約860店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

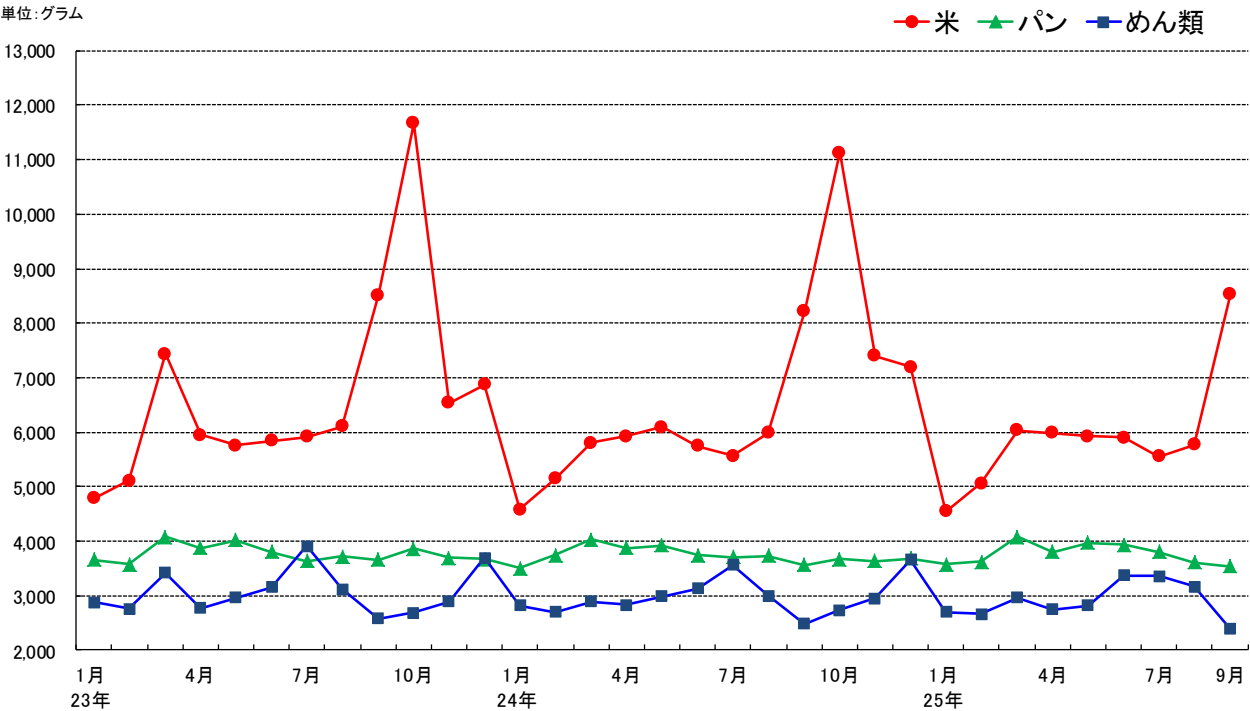
2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

(4) 購入数量の推移(家計調査)

(図)購入数量の推移



(表)購入数量の推移

(単位:グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 同月比	購入数量	対前年 同月比	購入数量	対前年 同月比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,140	97.7%	45,493	99.8%	36,999	101.0%
平成23年	80,510	96.8%	45,254	99.5%	36,835	99.6%
平成24年	78,800	97.9%	44,820	99.0%	35,738	97.0%
平成23年1月	4,790	97.4%	3,656	99.5%	2,875	96.9%
2月	5,110	91.3%	3,573	102.6%	2,763	99.5%
3月	7,440	115.9%	4,076	99.0%	3,424	109.2%
4月	5,950	93.0%	3,878	97.2%	2,776	94.5%
5月	5,760	91.0%	4,015	101.5%	2,958	98.6%
6月	5,840	90.8%	3,804	100.4%	3,149	103.7%
7月	5,910	96.3%	3,640	94.5%	3,911	111.6%
8月	6,110	97.9%	3,724	103.1%	3,122	95.5%
9月	8,520	95.4%	3,653	99.7%	2,583	101.9%
10月	11,670	113.2%	3,866	97.2%	2,686	92.2%
11月	6,540	82.6%	3,700	100.0%	2,893	95.8%
12月	6,870	91.6%	3,669	99.7%	3,695	94.6%
平成24年1月	4,580	95.6%	3,505	95.9%	2,821	98.1%
2月	5,150	100.8%	3,744	104.8%	2,699	97.7%
3月	5,810	78.1%	4,035	99.0%	2,889	84.4%
4月	5,930	99.7%	3,870	99.8%	2,831	102.0%
5月	6,090	105.7%	3,917	97.6%	2,986	100.9%
6月	5,750	98.5%	3,741	98.3%	3,132	99.5%
7月	5,560	94.1%	3,704	101.8%	3,557	90.9%
8月	5,990	98.0%	3,736	100.3%	2,996	96.0%
9月	8,220	96.5%	3,566	97.6%	2,477	95.9%
10月	11,130	95.4%	3,676	95.1%	2,738	101.9%
11月	7,400	113.1%	3,640	98.4%	2,955	102.1%
12月	7,190	104.7%	3,686	100.5%	3,657	99.0%
平成25年1月	4,550	99.3%	3,572	101.9%	2,695	95.5%
2月	5,060	98.3%	3,625	96.8%	2,665	98.7%
3月	6,030	103.8%	4,076	101.0%	2,965	102.6%
4月	5,980	100.8%	3,802	98.2%	2,752	97.2%
5月	5,920	97.2%	3,972	101.4%	2,816	94.3%
6月	5,900	102.6%	3,929	105.0%	3,365	107.4%
7月	5,550	99.8%	3,803	102.7%	3,363	94.5%
8月	5,770	96.3%	3,607	96.5%	3,164	105.6%
9月	8,540	103.9%	3,536	99.2%	2,391	96.5%

資料： 総務省「家計調査」
注： 1 二人以上の世帯の数値である。
2 平成20年から平成24年については、年間の購入数量を示す。
3 精米ベースである。

(5) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

（上段：対前年同月比、下段：実数（精米g/人））

		平成24年4月		平成24年5月		平成24年6月		平成24年7月		平成24年8月		平成24年9月	
			内訳		内訳		内訳		内訳		内訳		内訳
合計		▲0.7%		▲0.04%		+1.8%		+2.3%		▲1.3%		▲0.4%	
		5,395	100.0%	5,104	100.0%	5,135	100.0%	4,788	100.0%	4,629	100.0%	4,820	100.0%
	家庭内	+3.0%		+0.4%		+1.2%		+4.0%		+2.3%		+1.5%	
		3,642	67.5%	3,391	66.4%	3,446	67.1%	3,170	66.2%	3,126	67.5%	3,285	68.2%
	中・外食	▲7.6%		▲0.9%		+3.1%		▲1.0%		▲8.1%		▲4.2%	
		1,754	32.5%	1,713	33.6%	1,690	32.9%	1,618	33.8%	1,504	32.5%	1,535	31.8%
	中食	▲12.3%		▲5.1%		+5.4%		+3.2%		▲7.1%		▲3.0%	
		1,010	18.7%	988	19.4%	1,004	19.6%	942	19.7%	851	18.4%	882	18.3%
	外食	▲0.3%		+5.4%		+0.0%		▲6.4%		▲9.4%		▲5.8%	
		744	13.8%	725	14.2%	686	13.4%	676	14.1%	652	14.1%	653	13.5%
		平成24年10月		平成24年11月		平成24年12月		平成25年1月		平成25年2月		平成25年3月	
			内訳		内訳		内訳		内訳		内訳		内訳
合計		+3.1%		+1.2%		+6.9%		+1.8%		+4.7%		▲1.8%	
		4,931	100.0%	4,916	100.0%	4,914	100.0%	4,746	100.0%	4,866	100.0%	4,664	100.0%
	家庭内	+5.9%		+4.8%		+13.5%		+7.2%		+8.4%		+1.1%	
		3,420	69.4%	3,406	69.3%	3,384	68.9%	3,318	69.9%	3,431	70.5%	3,195	68.5%
	中・外食	▲2.8%		▲5.9%		▲5.2%		▲8.8%		▲3.2%		▲7.5%	
		1,511	30.6%	1,510	30.7%	1,530	31.1%	1,429	30.1%	1,435	29.5%	1,469	31.5%
	中食	▲2.1%		▲5.1%		▲1.5%		▲1.5%		+1.6%		▲7.1%	
		873	17.7%	857	17.4%	877	17.8%	836	17.6%	847	17.4%	827	17.7%
	外食	▲3.6%		▲7.1%		▲9.7%		▲17.5%		▲9.2%		▲8.0%	
		638	12.9%	652	13.3%	654	13.3%	592	12.5%	589	12.1%	642	13.8%
		平成25年4月		平成25年5月		平成25年6月		平成25年7月		平成25年8月		平成25年9月	
			内訳		内訳		内訳		内訳		内訳		内訳
合計		▲11.4%		▲10.4%		▲10.9%		▲8.7%		▲8.6%		▲8.7%	
		4,779	100.0%	4,574	100.0%	4,575	100.0%	4,373	100.0%	4,233	100.0%	4,400	100.0%
	家庭内	▲13.0%		▲9.0%		▲11.5%		▲8.9%		▲11.1%		▲9.0%	
		3,169	66.3%	3,086	67.5%	3,048	66.6%	2,889	66.1%	2,779	65.7%	2,990	68.0%
	中・外食	▲8.2%		▲13.1%		▲9.6%		▲8.2%		▲3.3%		▲8.2%	
		1,610	33.7%	1,489	32.6%	1,527	33.4%	1,485	34.0%	1,454	34.3%	1,409	32.0%
	中食	▲7.8%		▲10.8%		▲11.1%		▲8.4%		▲6.2%		▲7.9%	
		931	19.5%	881	19.3%	893	19.5%	863	19.7%	798	18.9%	812	18.5%
	外食	▲8.7%		▲16.1%		▲7.6%		▲8.0%		+0.6%		▲8.4%	
		679	14.2%	608	13.3%	634	13.9%	622	14.2%	656	15.5%	598	13.6%

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成24年4月及び5月の対前年同月比については、平成23年4月分及び5月分の暫定値（東日本大震災のため東北6県及び茨城県を調査対象外）との比較。

2 25年9月分の有効調査世帯数は2,401。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握。家庭外消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯類の概量から推計。

4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

② 精米購入時の動向

(ア) 入手経路(複数回答)

(%)

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	生協 (店舗・共同購入含む)	農協 (店舗・共同購入含む)	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	家族・知人などから無償で入手	その他
平成23年度	0.7	45.9	3.7	4.2	0.4	8.6	1.4	3.8	1.3	6.8	6.4	23.5	2.2
平成24年度	1.0	45.1	4.3	3.4	0.3	7.8	1.8	4.2	1.8	7.0	7.4	22.9	2.0
平成25年4月	0.7	49.0	4.4	3.2	0.1	7.7	1.5	3.4	1.6	6.7	8.1	17.5	3.0
5月	0.7	49.2	4.2	2.7	0.5	7.0	1.4	4.9	1.8	5.9	10.3	17.7	1.5
6月	0.6	50.5	4.0	2.2	0.4	8.3	1.6	4.1	1.9	6.3	9.2	17.6	1.6
7月	0.8	49.1	4.6	3.8	0.5	7.6	1.9	5.1	1.3	5.8	9.4	17.9	0.9
8月	0.7	48.5	3.3	2.1	0.4	7.6	1.8	4.6	1.9	6.5	8.0	21.0	1.1
9月	0.5	49.4	4.0	2.1	0.3	6.3	1.7	4.5	1.5	6.4	9.3	22.7	1.6

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成23・24年度は各年4月から翌年3月までの平均値。

2 25年9月分の有効調査世帯数は1568。

(イ) 入手経路別の購入数量

(kg、%)

	25年4月(n=1373)			25年5月(n=1452)			25年6月(n=1665)		
	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量
デパート	55	0.4	5.9	45	0.3	4.4	112	0.7	10.7
スーパーマーケット	5,104	38.2	7.6	5,586	37.8	7.8	6,478	39.2	7.7
ドラッグストア	447	3.4	7.3	415	2.8	6.8	500	3.0	7.5
ディスカウントストア	370	2.8	8.3	309	2.1	7.8	259	1.6	7.0
コンビニエンスストア	13	0.1	6.5	29	0.2	4.1	19	0.1	3.0
生協(店舗・共同購入含む)	746	5.6	7.0	790	5.3	7.8	1,106	6.7	8.0
農協(店舗・共同購入含む)	257	1.9	12.2	280	1.9	13.4	364	2.2	13.4
米穀専門店	498	3.7	10.7	688	4.7	9.6	661	4.0	9.7
産地直売所	194	1.5	8.8	251	1.7	9.4	265	1.6	8.2
生産者から直接購入	1,892	14.2	20.6	1,635	11.1	19.0	2,209	13.3	21.2
インターネットショップ	1,299	9.7	11.7	1,790	12.1	12.0	1,697	10.3	11.1
家族・知人などから無償で入手	2,469	18.5	10.3	2,959	20.0	11.5	2,877	17.4	9.8

	25年7月(n=1630)			25年8月(n=1573)			25年9月(n=1568)		
	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量	購入数量	比率	世帯平均購入数量
デパート	76	0.5	6.1	85	0.5	8.3	62	0.4	7.2
スーパーマーケット	6,372	38.8	8.0	6,161	38.1	8.1	6,079	37.7	7.9
ドラッグストア	560	3.4	7.5	417	2.6	8.0	456	2.8	7.2
ディスカウントストア	524	3.2	8.6	332	2.1	10.0	294	1.8	9.1
コンビニエンスストア	36	0.2	4.8	15	0.1	2.4	4	0.02	0.9
生協(店舗・共同購入含む)	1,046	6.4	8.4	934	5.8	7.9	845	5.2	8.5
農協(店舗・共同購入含む)	451	2.7	14.2	322	2.0	11.6	269	1.7	10.0
米穀専門店	838	5.1	10.0	689	4.3	9.5	755	4.7	10.8
産地直売所	167	1.0	7.8	285	1.8	9.5	178	1.1	7.5
生産者から直接購入	1,769	10.8	18.6	2,143	13.3	20.9	2,209	13.7	22.1
インターネットショップ	1,602	9.7	10.5	1,446	9.0	11.5	1,544	9.6	10.6
家族・知人などから無償で入手	2,994	18.2	10.3	3,323	20.6	10.1	3,426	21.3	9.6

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：世帯平均購入数量は、精米を購入した世帯の平均購入数量である。

(ウ) 重視する点(複数回答)

(%)

	産地	品種	年産	価格	食味 (おいしさ)	適量感	安全性	無洗米	精米年月日	栽培方法	製造販売事業者	販売店	その他
平成23年度	49.8	51.4	36.6	77.8	48.8	9.0	31.1	-	27.4	4.5	7.7	4.6	5.0
平成24年度	53.8	51.4	36.8	74.5	49.0	9.0	32.4	11.4	23.9	5.2	8	4.6	2.5
平成25年4月	54.8	52.3	32.8	77.1	45.2	9.0	31.1	12.8	23.1	4.0	7.3	3.7	3.1
5月	54.1	53.7	34.3	75.2	46.5	8.1	32.1	11.9	22.3	3.9	6.0	3.5	2.3
6月	54.5	53.7	33.9	76.2	47.7	9.2	29.3	12.3	23.3	3.4	6.7	3.7	2.4
7月	55.4	52.7	35.0	77.6	47.6	8.2	31.8	11.5	22.5	3.8	8.0	4.2	1.5
8月	57.4	54.2	36.0	76.3	44.5	7.4	32.8	10.6	22.2	4.0	7.8	3.4	1.9
9月	58.8	53.4	38.5	77.1	46.9	8.4	30.6	11.9	25.4	4.6	8.0	2.8	1.8

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成23・24年度は各年4月から翌年3月までの平均値。

2 「無洗米」は平成24年度から選択肢に加えた。

(エ) 家庭内の月末在庫数量

(kg/世帯)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
23年度	月末在庫数量	6.8	7.0	7.0	6.7	6.9	6.9	8.3	7.9	8.3	7.6	7.5	7.2
	平均世帯人員	2.51	2.51	2.54	2.53	2.54	2.53	2.53	2.54	2.54	2.54	2.54	2.54
24年度	月末在庫数量	6.1	6.1	6.3	6.2	6.1	6.5	7.3	7.2	7.4	7.1	6.8	6.8
	平均世帯人員	2.42	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41
25年度	月末在庫数量	6.4	6.3	6.3	6.2	6.4	6.6						
	平均世帯人員	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41	2.41						

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：平均世帯人員は、各月の有効調査世帯の平均人員数である。

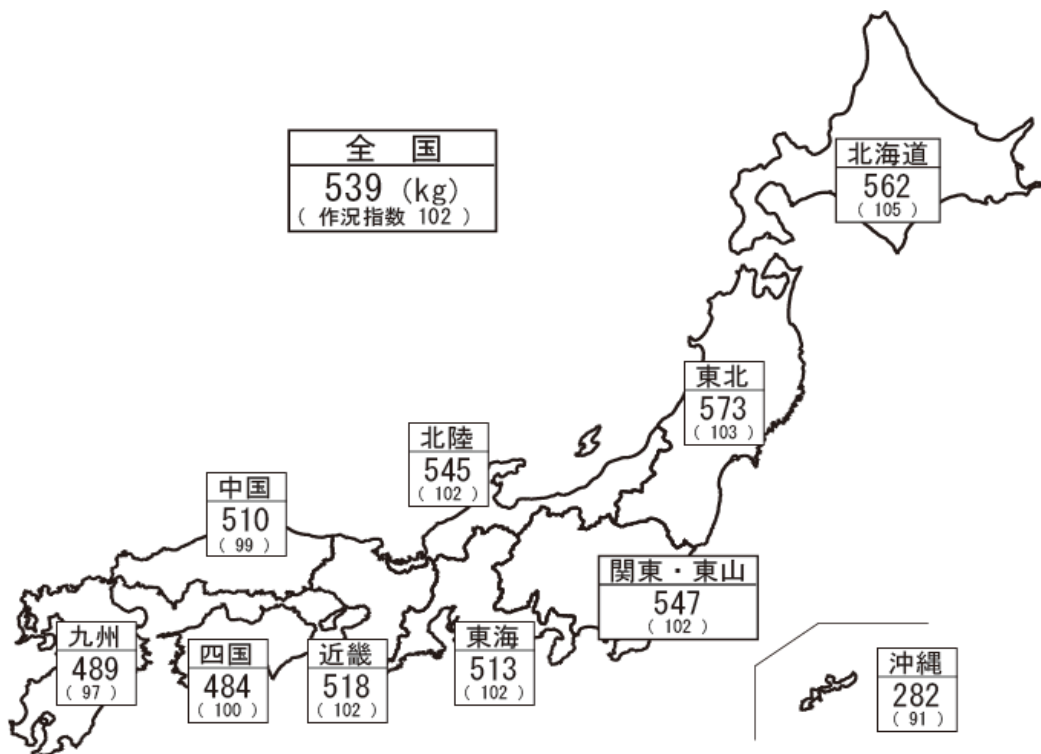
Ⅳ 生産段階の動向

(1) 平成25年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）（10月30日公表）

【調査結果の概要】

- 1 平成25年産水稻の作付面積（子実用）は159万7,000haで、うち主食用作付見込面積は152万2,000haが見込まれる。
- 2 10月15日現在における水稻の作柄は、全もみ数が総じてやや多いないし平年並みとなり、登熟はウンカ等病虫害の影響等があった中国、四国及び九州を除きおおむね順調に推移していることから、全国の10a当たり予想収量は539kg（作況指数102）が見込まれる。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は860万4,000tが見込まれる。
また、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は818万3,000tが見込まれる。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量(10月15日現在)



- 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積（見込み）である。
- 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率である。
- この調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数、登熟状況等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

- 平成25年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）は「農林水産統計」からの抜粋。詳しくは、下記にて御覧いただけます。

農林水産省ホーム > 組織・政策 > 統計情報 【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

【調査結果】

1 平成25年産水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から青刈り用の面積を除いた子実用作付面積は159万7,000haで、前年産に比べて1万8,000ha増加した。

また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた主食用作付見込面積は152万2,000haで、前年産に比べて2,000haの減少が見込まれる。

2 10月15日現在における水稻の地域別の作柄は、北海道では、全もみ数がやや少なかったものの、登熟が平年を上回って推移したことから、10a当たり予想収量は562kg（作況指数105）が見込まれる。

東北から近畿では、生育期間を通しておおむね天候に恵まれ、全もみ数が総じて平年並みないしやや多く、登熟もおおむね順調に推移したことから、東北は10a当たり予想収量は573kg（同103）、北陸は545kg（同102）、関東・東山は547kg（同102）、東海は513kg（同102）、近畿は518kg（同102）が見込まれる。

中国から九州では、九州を除き全もみ数は平年並みに確保された地域が多かったものの、ウンカ等の病虫害の被害が広範囲に発生したことや登熟期間の高温の影響等で登熟が平年を下回っていることから、中国は10a当たり予想収量は510kg（同99）、四国は484kg（同100）、九州は489kg（同97）が見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は539kg（同102）が見込まれる。

3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は860万4,000tが見込まれる。

また、主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は818万3,000tが見込まれる。

表1 平成25年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在、全国農業地域別）

全国農業地域	作付面積 （子実用）	10a当たり 予想収量 ②	10a当たり 平年収量 ③	作況指数 ④＝②／③	予想収穫量 （子実用）	参 考	
	実 数 ①				実 数 ⑤＝①×②	主食用作付 見込面積 ⑥	予想収穫量 （主食用） ⑦＝⑥×②
	ha	kg	kg		t	ha	t
全 国	1,597,000	539	530	102	8,604,000	1,522,000	8,183,000
北 海 道	112,000	562	535	105	629,400	107,000	601,300
東 北	406,200	573	559	103	2,328,000	376,000	2,153,000
北 陸	212,700	545	533	102	1,160,000	193,900	1,058,000
関 東・東 山	298,900	547	534	102	1,635,000	287,200	1,571,000
東 海	102,300	513	503	102	524,800	100,200	513,900
近 畿	109,400	518	509	102	567,200	106,900	554,000
中 国	115,200	510	517	99	587,600	112,900	575,600
四 国	56,400	484	484	100	273,200	55,700	269,700
九 州	183,500	489	503	97	896,400	180,900	883,600
沖 縄	890	282	309	91	2,510	890	2,510

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積（見込み）である。

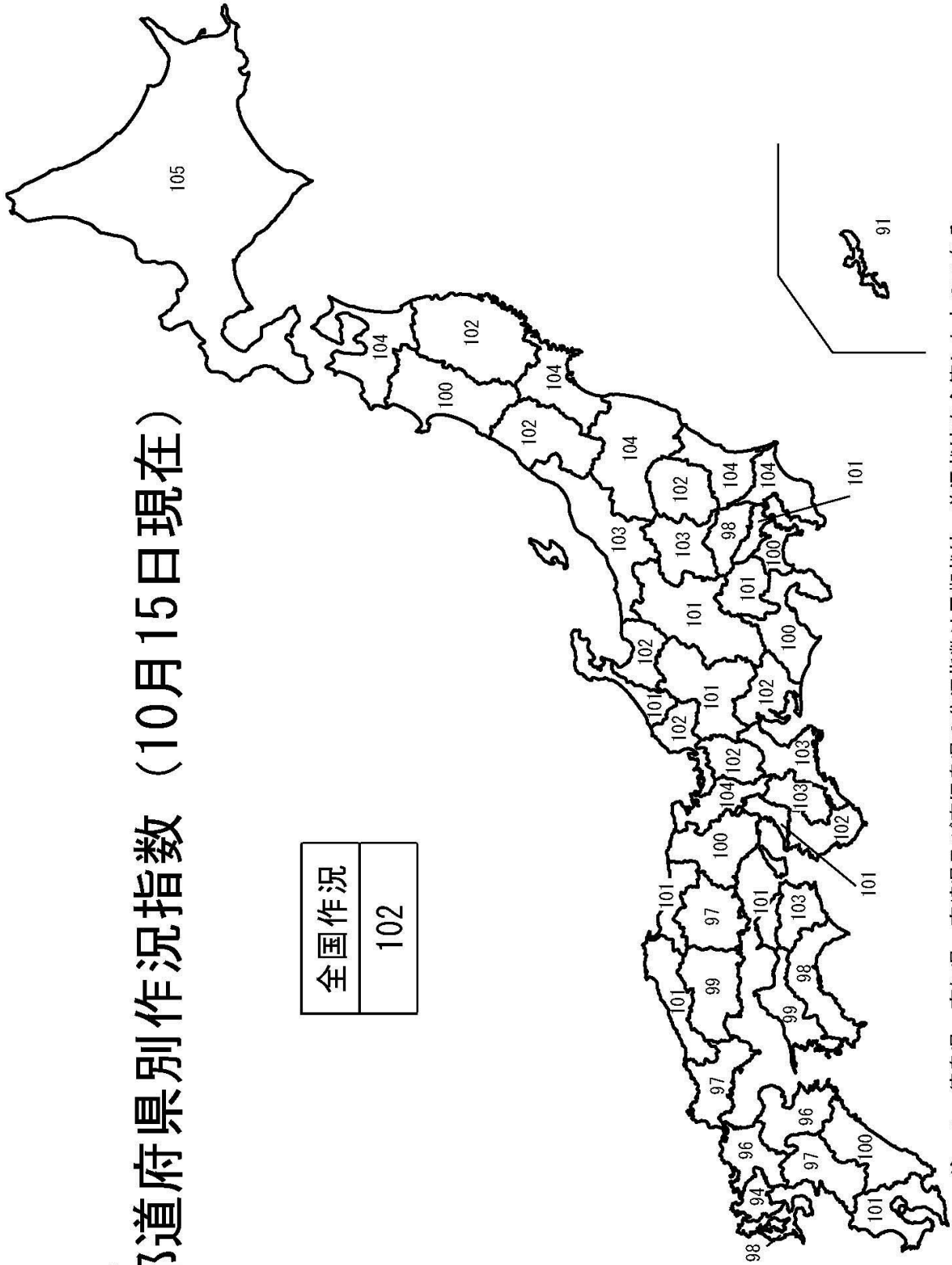
3 予想収穫量（子実用）及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

4 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平年収量を用いた。

図2

都道府県別作況指数（10月15日現在）

全国作況
102



注：1 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。
 2 沖縄県の作況指数は、第一期稲の10 a 当たり収量及び第二期稲の10 a 当たり平年収量から算出した
 沖縄県計の10 a 当たり予想収量と、10 a 当たり平年収量の比率である。

表 2 平成25年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

全 国 都 道 府 県	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 予想収量 ②	10 a 当たり 平年収量 ③	作 況 指 数 ④=②/③	予想収穫量 (子実用)	参 考	
	実 数 ①				実 数 ⑤=①×②	主 食 用 作 付 見 込 面 積 ⑥	予 想 収 穫 量 (主 食 用) ⑦=⑥×②
	ha	kg	kg		t	ha	t
全 国	1,597,000	539	530	102	8,604,000	1,522,000	8,183,000
北海道	112,000	562	535	105	629,400	107,000	601,300
青 森	49,600	610	584	104	302,600	44,600	272,100
岩 手	55,400	542	533	102	300,300	53,100	287,800
宮 城	72,200	552	530	104	398,500	70,400	388,600
秋 田	92,500	572	573	100	529,100	78,700	450,200
山 形	68,300	608	594	102	415,300	63,500	386,100
福 島	68,200	561	537	104	382,600	65,700	368,600
茨 城	75,900	542	522	104	411,400	73,600	398,900
栃 木	66,200	549	540	102	363,400	61,000	334,900
群 馬	17,600	509	494	103	89,600	16,500	84,000
埼 玉	35,400	481	490	98	170,300	34,500	165,900
千 葉	60,900	554	533	104	337,400	59,400	329,100
東 京	161	415	411	101	668	161	668
神 奈 川	3,150	495	493	100	15,600	3,150	15,600
新 潟	119,700	555	539	103	664,300	107,100	594,400
富 山	39,700	546	537	102	216,800	36,300	198,200
石 川	26,700	522	519	101	139,400	25,000	130,500
福 井	26,500	526	517	102	139,400	25,600	134,700
山 梨	5,260	551	547	101	29,000	5,210	28,700
長 野	34,400	632	623	101	217,400	33,700	213,000
岐 阜	24,700	495	488	101	122,300	24,300	120,300
静 岡	17,100	521	521	100	89,100	16,900	88,000
愛 知	30,300	519	507	102	157,300	29,500	153,100
三 重	30,200	517	500	103	156,100	29,500	152,500
滋 賀	33,400	529	518	102	176,700	32,000	169,300
京 都	15,500	530	511	104	82,200	15,300	81,100
大 阪	5,640	502	495	101	28,300	5,630	28,300
兵 庫	38,400	506	504	100	194,300	37,500	189,800
奈 良	9,190	527	513	103	48,400	9,150	48,200
和 歌 山	7,380	506	495	102	37,300	7,380	37,300
鳥 取	14,100	519	514	101	73,200	13,800	71,600
島 根	19,100	514	509	101	98,200	18,800	96,600
岡 山	33,100	512	526	97	169,500	32,000	163,800
広 島	26,000	520	523	99	135,200	25,500	132,600
山 口	22,900	487	504	97	111,500	22,800	111,000
徳 島	13,400	487	474	103	65,300	13,100	63,800
早 期 栽 培	5,290	468	463	101	24,800	...	...
普 通 栽 培	8,130	499	480	104	40,600	...	...
香 川	14,700	503	499	101	73,900	14,500	72,900
愛 媛	15,300	494	498	99	75,600	15,200	75,100
高 知	13,000	449	460	98	58,400	12,900	57,900
早 期 栽 培	7,650	473	481	98	36,200	...	...
普 通 栽 培	5,360	414	430	96	22,200	...	...
福 岡	38,700	479	499	96	185,400	38,100	182,500
佐 賀	26,700	491	525	94	131,100	26,400	129,600
長 崎	13,500	468	478	98	63,200	13,500	63,200
熊 本	38,400	502	515	97	192,800	37,500	188,300
大 分	23,800	485	503	96	115,400	23,700	114,900
宮 崎	18,900	495	497	100	93,600	18,700	92,600
早 期 栽 培	8,000	476	480	99	38,100	...	...
普 通 栽 培	10,900	509	511	100	55,500	...	...
鹿 児 島	23,500	489	483	101	114,900	23,000	112,500
早 期 栽 培	5,490	461	443	104	25,300	...	...
普 通 栽 培	18,000	497	495	100	89,500	...	...
沖 縄	890	282	309	91	2,510	890	2,510
第 一 期 稲	596	332	370	90	1,980	...	...
第 二 期 稲	294	...	180	...	...	...	...

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積（見込み）である。
3 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付見込面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。
4 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「…」で示しており、沖縄県計の10 a 当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10 a 当たり収量と第二期稲の10 a 当たり平年収量を用いた。

(2) 国産米(水稻)の作況・収穫量

年産	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収 量 kg	収 穫 量 (子実用) t	(参考)				作況 指数
				主 食 用 作付面積 ha	収 穫 量 (主食用) t	10a当たり 平年収量 kg	生産数量 目 標 t	
18	1,684,000	507	8,546,000	...	...	529	8,330,000	96
19	1,669,000	522	8,705,000	...	...	529	8,280,000	99
20	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	530	8,150,000	102
21	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	530	8,150,000	98
22	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	530	8,130,000	98
23	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	530	7,950,000	101
24	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	530	7,930,000	102
25(見込み)	1,597,000	539	8,604,000	1,522,000	8,183,000	530	7,910,000	102

出典： 農林水産省統計部「統計情報」
注： 1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積である。
2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、需給調整の取組として取り扱う米穀等（加工用米、新規需要米等）の面積を除いた面積である。
3 「…」は、事実不詳又は調査を欠くものであることを示す。

(3) 水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、収穫量(子実用)及び10a当たり収量

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45％）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

① ふるい目幅別重量分布状況

単位：％

区 分 年 産	合 計	ふるい目幅別重量割合					
		2.00mm 以 上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
17年産	100.0	71.2	20.5	3.6	2.3	1.4	1.0
18年産	100.0	72.9	19.2	3.5	2.2	1.3	0.9
19年産	100.0	75.5	17.9	3.0	1.8	1.1	0.7
20年産	100.0	76.2	16.5	3.0	2.1	1.3	0.9
21年産	100.0	75.2	17.4	3.2	2.1	1.3	0.8
22年産	100.0	81.3	13.2	2.3	1.6	1.0	0.6
23年産	100.0	75.8	16.6	3.1	2.2	1.4	0.9
24年産	100.0	81.7	13.0	2.2	1.5	1.0	0.6
25年産（概数値）	100.0	78.8	14.5	2.7	1.9	1.3	0.8

資料： 農林水産省統計部「統計情報」
注： 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

② 選別ふるい目幅別収穫量(子実用)及び10a当たり収量

単位：kg（10a当たり収量）、トン（収穫量（子実用））

年産	区 分	選別ふるい目幅別収穫量及び10 a 当たり収量					
		1. 70mm 選別					
			1. 75mm 選別	1. 80mm 選別	1. 85mm 選別	1. 90mm 選別	2. 00mm 選別
17年産	10 a 当たり収量	532	527	519	507	488	379
18年産		507	502	496	485	467	370
19年産		522	518	513	503	488	394
20年産		543	538	531	520	503	414
21年産		522	518	511	500	483	393
22年産		522	519	514	505	493	424
23年産		533	528	521	509	492	404
24年産	10 a 当たり収量	540	537	531	523	511	441
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	8, 519, 000	8, 468, 000	8, 383, 000	8, 255, 000	8, 067, 000	6, 960, 000
25年産 (概数値)	10 a 当たり収量	539	535	528	517	503	425
	収 穫 量 （ 子 実 用 ）	8, 604, 000	8, 535, 000	8, 423, 000	8, 260, 000	8, 028, 000	6, 780, 000

資料： 農林水産省統計部「統計情報」
注： 1 選別ふるい目幅別の収穫量とは、全国の予想収穫量に選別ふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。
2 選別ふるい目幅別の10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことである。
3 ふるい目幅別の収穫量については、平成24年産より集計・公表を行っている。

(4) 加工用米及び新規需要米の取組状況

① 加工用米の生産量

(単位:トン)

	うるち米	もち米	合計	全国流通	地域流通
平成16年産	117,837	4,404	122,241	121,719	522
17年産	123,996	4,738	128,734	127,160	1,574
18年産	140,596	7,996	148,592	146,529	2,064
19年産	152,145	10,659	162,804	160,670	2,134
20年産	138,895	10,154	149,048	142,803	6,246
21年産	134,389	6,779	141,168	122,771	18,397
22年産	190,883	21,945	212,829	134,958	77,870
23年産	122,699	31,856	154,555	46,087	108,468
24年産	148,695	32,190	180,885	65,821	115,064
25年産	179,737	29,769	209,506	83,466	126,040

資料：農林水産省「加工用米生産量」

- 注：1 平成24年産までは「米穀の需給調整実施要領」の規定により報告された生産集出荷数量。平成25年産は、取組計画の認定を受けた生産予定数量（平成25年10月15日現在）。
- 2 全国流通の値は、生産集出荷数量等のうち、取組主体が全国生産出荷団体であるものの合計値。
- 3 地域流通の値は、生産集出荷数量等のうち、取組主体が都道府県出荷団体、認定方針作成者及び農業者であるものの合計値。
- 4 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

② 新規需要米の用途別認定状況

(単位:トン、ha)

用途区分	平成20年産		平成21年産		平成22年産		平成23年産		平成24年産		平成25年産	
	計画生産量	作付面積	計画生産量	作付面積	計画生産量	作付面積	計画生産量	作付面積	計画生産量	作付面積	計画生産量	作付面積
米粉用米	566	108	13,041	2,401	27,796	4,957	40,311	7,324	34,521	6,437	21,071	3,965
飼料用米	8,020	1,410	23,264	4,123	81,237	14,883	183,033	33,955	183,431	34,525	115,350	21,802
WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)	—	9,089	—	10,203	—	15,939	—	23,086	—	25,672	—	26,600
バイオエタノール用米	2,426	303	2,314	295	2,940	397	2,998	415	2,793	450	2,594	414
輸出用米	391	74	926	164	2,184	388	1,626	287	2,524	454	2,825	507
その他 (わら専用稲、青刈り用稲等)	982	1,330	1,108	956	694	508	852	501	857	553	659	457
合計	12,386	12,314	40,654	18,142	114,851	37,072	228,820	65,569	224,127	68,091	142,499	53,744

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」

- 注：1 WCS用稲、わら専用、青刈り用稲については子実を採らない用途であるため計画生産量はなし。
- 2 平成25年産は、需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成25年10月15日現在の値。
- 3 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(5) 水稻うるち玄米の検査結果

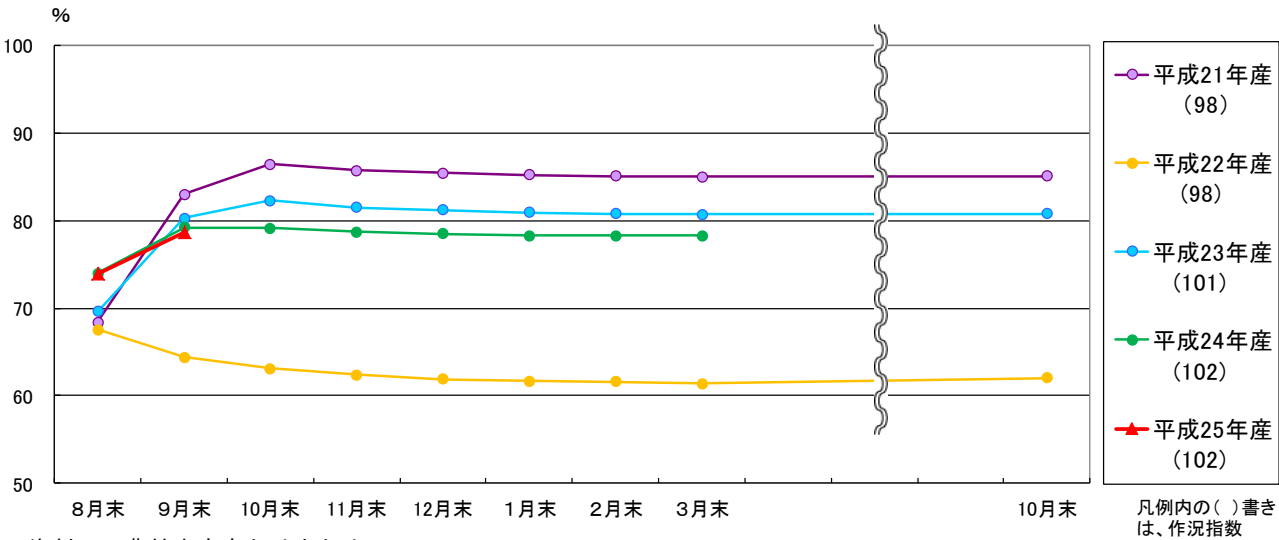
① 検査数量及び等級比率(年産別)

(単位:トン、%)

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
17	5,047,547	3,788,571	1,000,515	168,455	90,006	75.1	19.8	3.3	1.8
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24 ※1	4,657,491	3,647,067	851,813	80,027	78,584	78.3	18.3	1.7	1.7
25 ※2	1,868,651	1,470,985	353,371	32,631	11,664	78.7	18.9	1.7	0.6

資料： 農林水産省とりまとめ
注： 1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。
2 ※1の24年産については、平成25年3月31日現在（速報値）
3 ※2の25年産については、平成25年9月30日現在（速報値）

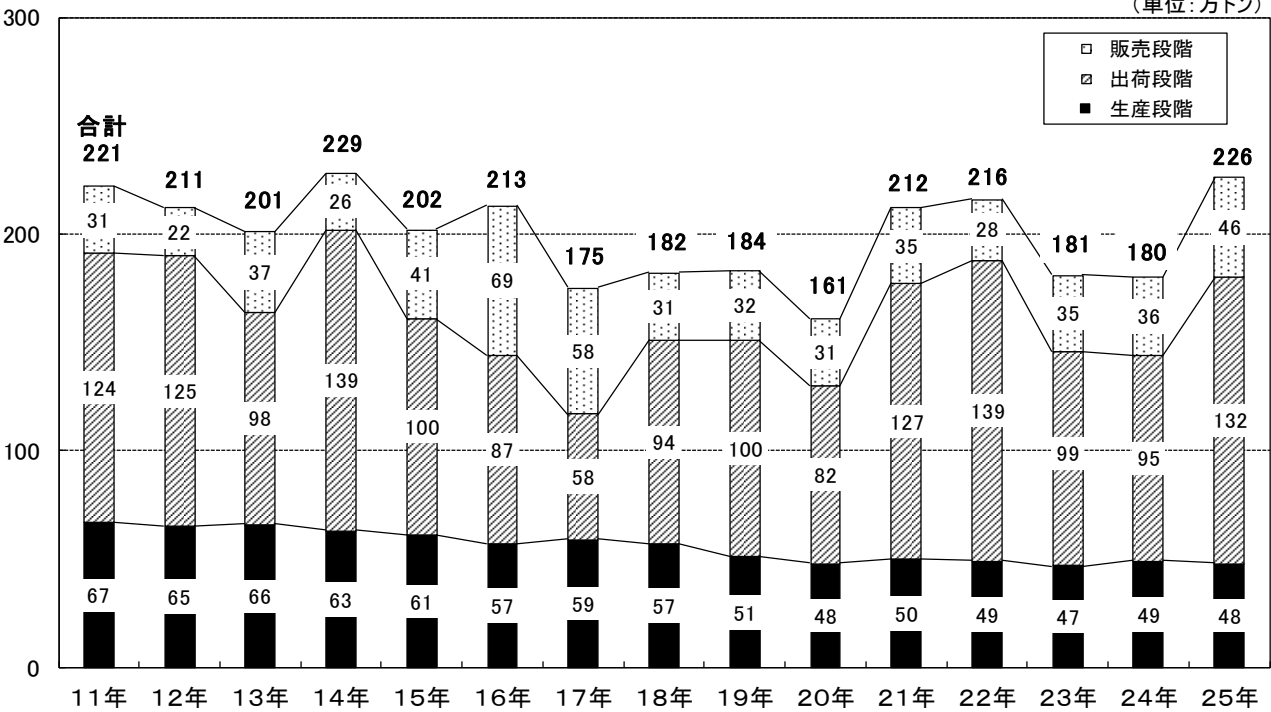
② 水稻うるち玄米の1等比率の推移



資料： 農林水産省とりまとめ
注： 1 「1等比率」とは、農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。
2 23年産からの1等比率については、4月以降の変動が軽微なため、生産年の翌年4～9月末時点の公表は行っていない。

V 主食用米等の需給見通し（平成25年7月の米の基本指針（平成25年7月26日））

(1) 民間流通における6月末在庫の推移

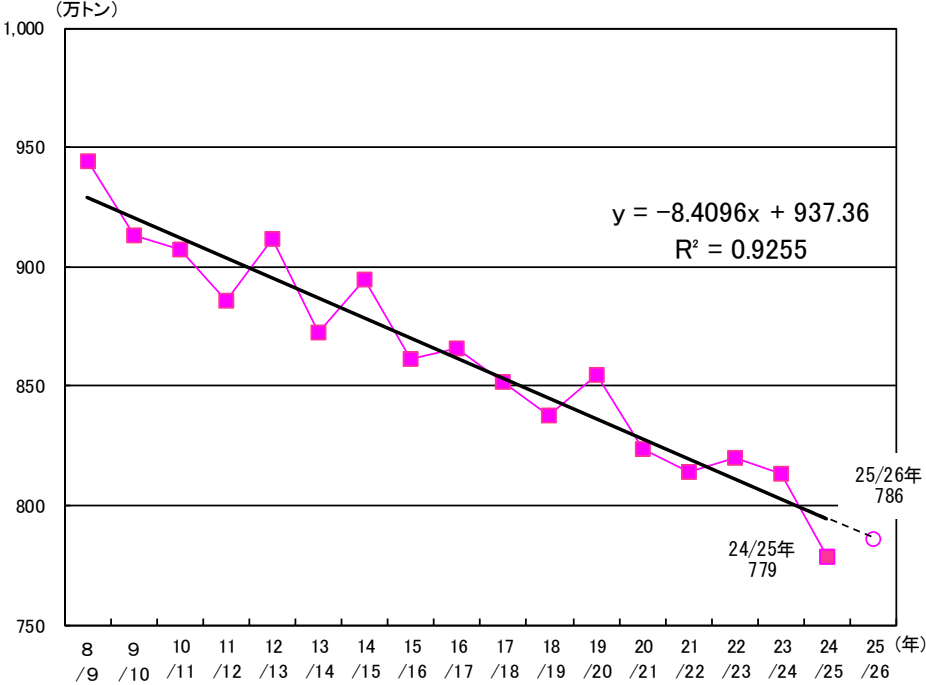


注： 1 うち玄米及びもち玄米の値である。
2 各年の民間在庫量において、
① 平成16年以降については、年間玄米取扱数量500トン以上の業者（販売・出荷段階）の数量である。
② 平成15年については、販売段階の在庫量は、旧登録卸売業者の年間玄米取扱数量500トン以上、旧登録小売業者の1,000トン以上の業者の数量、出荷段階の在庫量は、年間玄米取扱数量500トン以上の業者の数量である。
③ 平成14年以前については推計値であり、販売段階の在庫量は、卸在庫量に小売在庫量（推計）を加えた数量、出荷段階の在庫量は、系統在庫量に非系統在庫量（推計）を加えた数量である。
なお、生産段階の在庫量は、「生産者の米穀現在高等調査」（平成22年以降は「生産者の米穀在庫等調査」）を基に算出した在庫量から精米在庫量（推計）を控除した玄米在庫量である。
3 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

(2) 主食用米等の需要実績の推移

(単位: 万トン)

年	x	需要量(y)
8 / 9	1	943.8
9 / 10	2	912.9
10 / 11	3	907.3
11 / 12	4	885.9
12 / 13	5	911.5
13 / 14	6	872.1
14 / 15	7	894.7
15 / 16	8	861.6
16 / 17	9	865.4
17 / 18	10	851.7
18 / 19	11	837.5
19 / 20	12	854.5
20 / 21	13	823.6
21 / 22	14	814.1
22 / 23	15	820.0
23 / 24	16	813.3
24 / 25	17	778.5 (速報値)
25 / 26	18	786.0 (推計値)



(3) 平成24年7月から平成25年6月の主食用米等の需給実績(速報)

表 平成24/25年の主食用米等の需給実績(速報)

(単位: 万トン)

		主食用米等
24年 6 月末民間在庫量	A	180
24年産主食用米等生産量	B	821
24/25年備蓄米代替供給量	C	4
24/25年主食用米等供給量計	$D = A + B + C$	1,005
24/25年主食用米等需要量	E	779
25年 6 月末民間在庫量	$F = D - E$	226

(4) 平成25年7月から平成26年6月の主食用米等の需給見通し(推計)

表 平成25/26年の主食用米等の需給見通し(推計)

(単位: 万トン)

		主食用米等
25年 6 月末民間在庫量	A	226
25年産米生産数量目標	B	791 ※
25/26年主食用米等供給量計	$C = A + B$	1,017
25/26年主食用米等需要量	D	786
26年 6 月末民間在庫量	$E = C - D$	231

※ 25年産米の生産量は作柄等により上下する。

注: 1 「24/25年」とは、平成24年7月から平成25年6月までの1年間。

2 「25/26年」とは、平成25年7月から平成26年6月までの1年間。

【参 考】

米穀の需給に関する詳細は、「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」に掲載しています。

(<http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokuryo/130726/index.html>)

農林水産省ホーム > 組織・政策 > 審議会 > 食料・農業・農村政策審議会 > 食糧部会 > 食料・農業・農村政策審議会食糧部会 資料 (25年7月26日開催)

Ⅵ 備蓄米及びMA米の動向

(1) 国内産備蓄米の売買数量及び在庫数量

① 25年産国内産備蓄米の政府買入入札の結果

1 入札者数等

	第1回 (1月29日)	第2回 (2月12日)	第3回 (2月26日)	第4回 (3月12日)	第5回 (3月26日)	第6回 (4月9日)	第7回 (4月23日)	第8回 (5月28日)	第9回 (6月25日)
入札参加 資格者数	127	134	145	149	152	154	156	157	158
入札者数	50	54	36	19	17	17	20	25	13
落札者数	13	48	36	19	17	17	20	25	13

2 落札数量等

単位:トン

買入対象米穀 の産地	県別 優先枠	第1回 (1月29日)	第2回 (2月12日)	第3回 (2月26日)	第4回 (3月12日)	第5回 (3月26日)	第6回 (4月9日)	第7回 (4月23日)	第8回 (5月28日)	第9回 (6月25日)	25年産 落札 合計数量
北海道	21,000					10,153		3,905			14,058
青 森	21,000	102	825	15,489	1,551	189	170	273	1,429		20,028
岩 手	10,000	162	6,900	152	71		67	24	224		7,600
宮 城	10,000		140	12	229	6,712	20	197	118		7,428
秋 田	30,000		17,680	4,427	1,543	401	368	722	270		25,411
山 形	12,500	270	8,232	2,979	1,019						12,500
福 島	40,000	152	446	807	279	282	541	558	8,009		11,074
茨 城	3,000		34	237	867	195	32	103	10		1,478
栃 木	14,730		1,830		9,333						11,163
埼 玉	600		520	80							600
千 葉	5,000		1,288	486	161	191	216	32	276		2,650
新 潟	31,000	714	29,138	98	188	764	4	28	14		30,948
富 山	13,000		10,791	1,650		390					12,831
石 川	4,000			4,000							4,000
福 井	1,300			632							632
長 野	2,000		522					51	185		758
岐 阜	1,500			654		81					735
静 岡	1,200				10	22	20		10		62
愛 知	2,000		1,000			400		403			1,803
三 重	860	48	48		711						807
滋 賀	3,000		730	539	167	93		22	21		1,572
京 都	400										
兵 庫	1,200		120		140	180	66		48		554
奈 良	530								30		30
鳥 取	1,320				510	276	534				1,320
島 根	250					95					95
岡 山	3,100	249	1,128	1,203	137	174	37	1	45		2,974
広 島	1,560			300	600		102				1,002
山 口	3,000				121	24		106	85		336
徳 島	2,000		762	102	56	94	265	90	74		1,443
香 川	500			240				75	185		500
愛 媛	1,000				261	23	49	3			336
高 知	110			30	17	5		10	14		76
福 岡	1,300		242	65	65	61	16	5			454
佐 賀	900				830						830
長 崎	80						80				80
熊 本	1,000						300	72	211		583
大 分	240			240							240
道府県計		1,697	82,376	34,422	18,866	20,805	2,887	6,680	11,258		178,991
指定なし			210	120	130	495	557	15	674	1,900	4,101
合 計		1,697	82,586	34,542	18,996	21,300	3,444	6,695	11,932	1,900	183,092

② 24年産国内産備蓄米の政府買入入札の結果

1 入札者数等(第8回:最終 平成24年6月19日実施)口

入札参加資格者数	90
入札者数	5
落札者数	5

2 落札数量等(第8回:最終 平成24年6月19日実施)口

単位:トン

買入対象米穀の産地	提示数量	入札数量	落札数量
指定なし	117,021	411	411

(参考) 第1回から第8回の入札における落札状況

単位:トン

買入対象 米穀の産地	県別 優先枠	第1回 (1月19日)	第2回 (2月7日)	第3回 (2月21日)	第4回 (3月6日)	第5回 (3月19日)	第6回 (4月17日)	第7回 (5月22日)	第8回 (6月19日)	24年産 落札 合計数量
北海道	7,860		5,003	669	96					5,768
青 森	2,400	1,002	192	180	1,014					2,388
岩 手	5,680		4,846	258		45				5,149
宮 城	5,700			3,952						3,952
秋 田	13,230	8,843	420		252	80				9,595
山 形	7,690	4,669	569	2,452						7,690
福 島	1,320			52						52
茨 城	90			90						90
栃 木	2,500	1,050		798						1,848
千 葉	100		99							99
新 潟	10,120	233	9,200		165	16				9,614
富 山	7,920		7,920							7,920
石 川	1,120	420	120	100	120	50				810
福 井	2,430		1,300							1,300
長 野	100			93						93
三 重	700			699						699
岡 山	180	150								150
広 島	1,020		448	155						603
山 口	3,000		50	723		12				785
香 川	590									0
愛 媛	420			345						345
福 岡	120			120						120
佐 賀	190		190							190
熊 本	60									0
道県計		16,367	30,357	10,686	1,647	203				59,260
指定なし		2,004	11,571	3,730	3,648	309	1,492	965	411	24,130
合 計		18,371	41,928	14,416	5,295	512	1,492	965	411	83,390

※ 岡山産の第1回落札残数量(30トン)、千葉産の第2回落札残数量(1トン)、長野産の第3回落札残数量(7トン)、三重産の第3回落札残数量(1トン)及び青森産の第4回の落札残数量(12トン)については、最小申込数量(50トン)に満たないため、「指定なし」に繰り入れた。

③ 国内産備蓄米の売渡数量

最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況

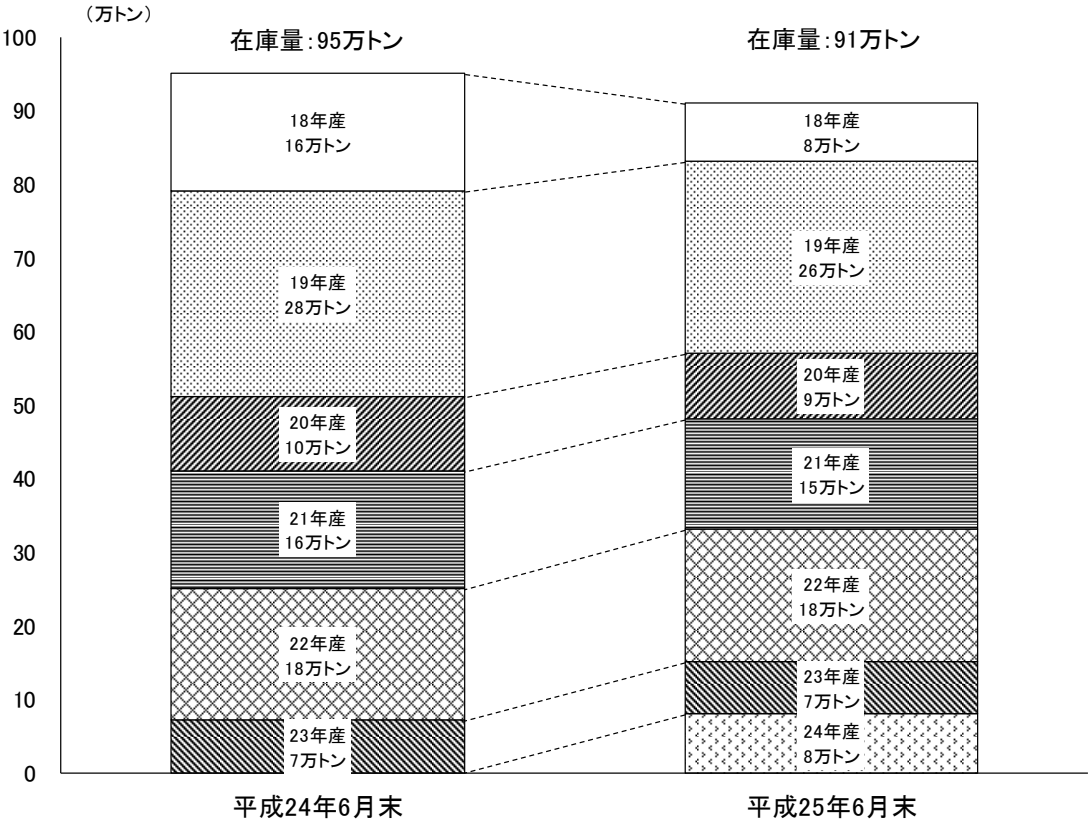
(単位:千トン)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	計
19/20年	17	24	20	21	20	7	0	1	0	1	0	6	117
20/21年	26	34	15	14	16	17	13	13	13	14	10	11	196
21/22年	6	4	4	3	3	2	1	2	2	1	2	1	31
22/23年	1	1	1	0	0	0	0	0	—	—	—	—	3
23/24年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

資料：農林水産省「最近における政府備蓄米（主食用）の販売状況」

- 注：1 期間については、22/23年であれば、平成22年7月～23年6月である。
2 販売数量は実際に卸売業者等が引き取った実績であり、契約数量とは異なる。（平成23年2月まで）
3 19/20年の11月・12月については緊急対策による販売停止以前に契約された分の引取数量であり、1～5月については矯正施設向けに販売し、引き取られた数量である。
4 平成23年1月をもって、政府所有国内産米穀（主食用）の販売入札（2月引取分まで）を終了している。

④ 政府備蓄米の在庫の状況（平成25年6月末現在）



資料：農林水産省調べ

- 注：1 うるち玄米の数量である。
2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
3 在庫量は、年間需要量の約1.5ヶ月分相当である。

(2) M A 米（一般・S B S）の動向

① M A 米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：万玄米トン）

	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
米国	19	23	29	32	34	36	36	36	36
タイ	11	14	15	15	16	17	15	15	15
中国	3	4	5	8	9	10	14	11	11
オーストラリア	9	9	9	11	11	12	11	10	9
その他	1	1	2	2	2	2	1	5	5
合計	43	51	60	68	72	77	77	77	76
（うち一般輸入）	42	49	54	55	59	63	66	71	65
（うちSBS輸入）※	1	2	6	12	12	12	10	5	10

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
米国	36	36	36	36	43	36	36	36	36
タイ	19	19	18	25	27	33	35	24	28
中国	10	9	8	8	7	7	2	6	5
オーストラリア	2	2	5	－	－	－	4	7	6
その他	10	11	10	1	0	1	0	4	1
合計	77	77	77	70	77	77	77	77	77
（うち一般輸入）	66	66	66	59	66	66	72	66	66
（うちSBS輸入）※	9	10	10	10	10	10	4	10	10

	平成25年度 （10月末現在）
米国	12
タイ	10
中国	0
オーストラリア	2
その他	0
合計	24
（うち一般輸入）	23
（うちSBS輸入）※	1

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」
※S B S 輸入数量の単位は万実トン。
注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。
2 ラウンドの関係で合計が一致しないことがある。
3 実トンと玄米トンのため合計は一致しないことがある。
（参考）M A 米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

② 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成25年度)

(単位：トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成25年4～6月分	29,700	平成25年4～7月分	2,685
4月分	860		
5月分	1,373		
6月分	1,643		
7～9月分	32,028		
7月分	816		
8月分	1,219		
9月分	2,421		
小 計	70,060	小 計	2,685
合 計	72,745		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

③ SBS輸入米の見積合わせ結果(平成25年度)

(単位：トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成25年9月25日)	一般米	2,722	936	548	72	0	94	1,230	0	5,602
	砕精米	0	180	300	108	216	0	1,696	0	2,500
第2回 (平成25年10月22日)	一般米	1,586	1,104	1,038	72	40	0	427	0	4,267
	砕精米	108	0	700	100	0	0	1,592	0	2,500
合計	一般米	4,308	2,040	1,586	144	40	94	1,657	0	9,869
	砕精米	108	180	1,000	208	216	0	3,288	0	5,000
平成22年度計 (参考)	一般米	2,904	2,228	1,880	120	2,936	0	538	0	10,606
	砕精米	16,438	640	9,010	0	532	0	0	0	26,620
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成22～25年度